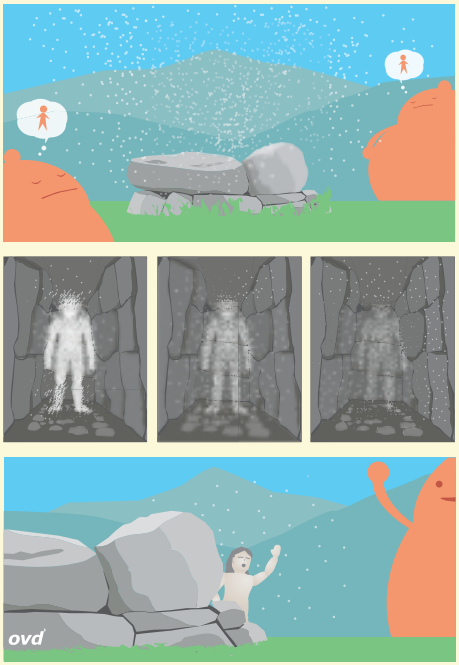
ソラの
人間誕生記

「人間は最初にストーンサークルや石室などで創られました。
宇宙（ソラ）のものより」



著者　白木 妙子　　編集　S・フミヒロ

ソラと星出版

ソラと星出版

ソラの人間誕生記

著者　白木 妙子

編集　S・フミヒロ

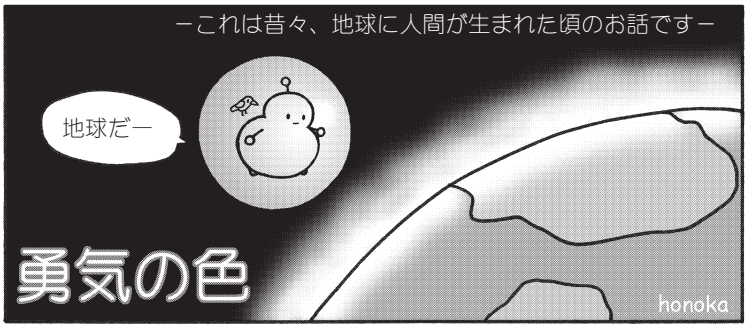
はじめにの前に

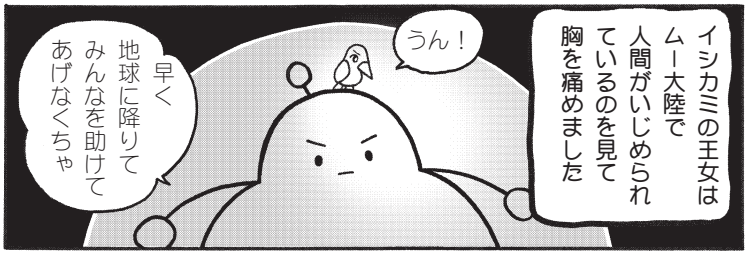
この本は宇宙（ソラ）から人間に初めて知らされた情報で出来ています。
次の物語は、そのたくさん知らされた情報の中の一つです。

【黒い肌の人とカラスの物語（勇気の色）】

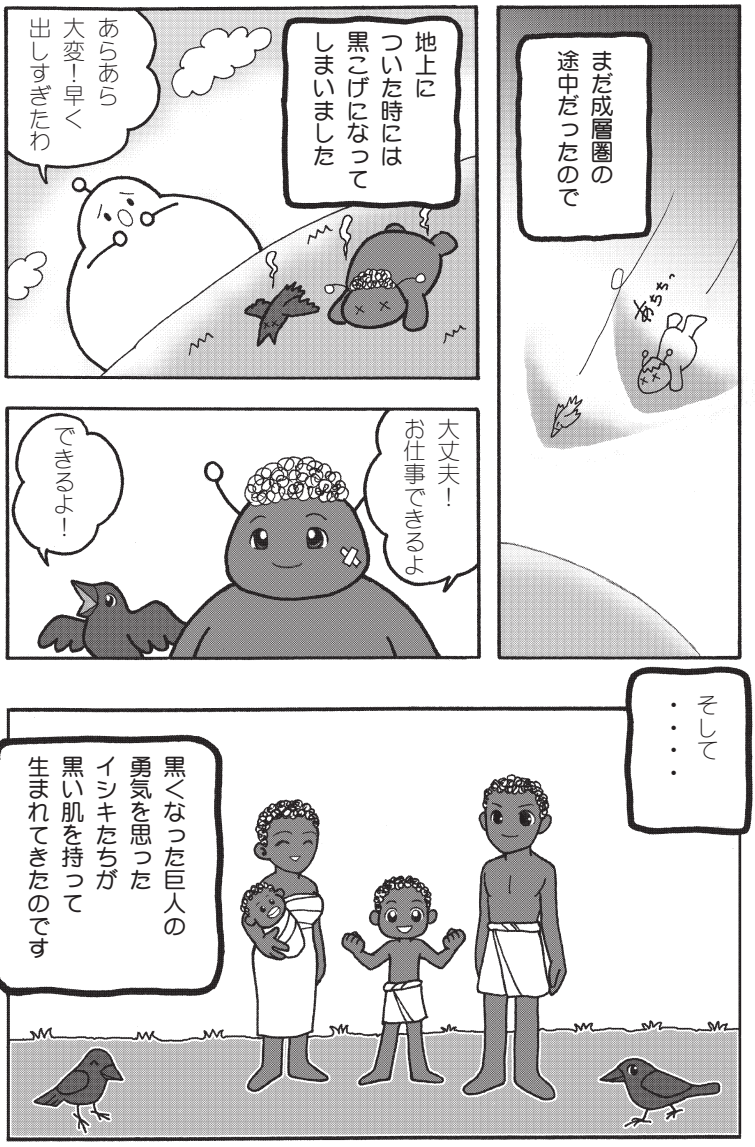
大昔に人間たちは支配星からいじめられていました。その様子をソラから見ていた心優しい星の意識体イシカミは、なんとしても早く人間を助けてあげようと思いました。それで小鳥座の一番大きな鳥と一緒に地球に向かいました。一刻も早く人間を助けようと思ったイシカミは、地球の成層圏の外側で、原子たちに巨人の形になるように集合の号令をかけてしまいました。小鳥座から来た大きな鳥も、その時に一緒に形になってしまいました。物質の状態で成層圏に突入してしまったために、その巨人と鳥は黒くこげてしまいました。

そのことを人間に伝えるために、肌が黒くて髪の毛が縮れた人間を創りました。人間を助けようと思った心優しいイシカミや、その巨人をあらわしているのが肌の黒い人たちです。その時に一緒に降りてきた勇気のある鳥をあらわしているのが黒いカラスです。


－これは昔々、地球に人間が生まれた頃のお話です－
地球だー
勇気の色
honoka


イシカミの王女は
ムー大陸で
人間がいじめられ
ているのを見て
胸を痛めました
うん！
早く
地球に降りて
みんなを助けて
あげなくちゃ


カラスさん
先に行って
見てきてね
行ってきます！
そして
おなかから
巨人を出すと
ボクも
行くぞー


まだ成層圏の
途中だったので
あちち
地上に
ついた時には
黒こげになって
しまいました
あらあら
大変！早く
出しすぎたわ
大丈夫！
お仕事できるよ
できるよ！
そして
・・・・・
黒くなった巨人の
勇気を思った
イシキたちが
黒い肌を持って
生まれてきたのです

はじめに

人間には「思い」という意識がありますが、私はこの意識は人間にだけあるものだと思っていました。そして人間が死ねばその意識はどこへ行くのか、永遠に解けないのではないかと思ってきました。

私は1998年7月から突然、自分の「思い」とは違う、そして想像したこともないことを、シリウスやいて座の星などの地球を応援する宇宙の意識体〝ソラ（宙）のもの〟から伝えられ、人間以外にも意識があることを知りました。それは、夜中にかすかに口が動いて言葉が出てくる、という体験でした。その言葉はとてもかすかですが、私が分からないと根気よく言葉を捜して伝えてくれました。そして毎日のように少しずつその言葉を知らされ続けて、ジグソーパズルのピースを当てはめていくように、次第にこの情報が姿をあらわしていきました。

なぜ、これまで聞いたことのないことがソラのものから知らされたかというと、かつて同じ民族であったもの同士が、大昔に教えられた宗教の教義の違いだけで絶えず争っているので、そのことを悲しんで地球の平和のために知らせてきたそうです。特にイスラム教の「目には目を、歯には歯を」は復讐の教えではなく、「目は見るもの、歯は食べるものをあらわ

し、何かをもらったら誰かにお返しをして、地球の富を欲張って独り占めしないように」という教えだった、ということを知らせてきました。

８年間に渡って知らされてきた多くの情報をインターネットや本でお知らせしてきましたが、その情報を検証していく過程で、インターネットを通して多くの情報を得ることが出来ました。本当に不思議な形の岩や人間が作ったと言われている古代遺跡が世界中にたくさんありますが、その形や作られた意味が謎とされたままになっていることがとてもよく分かりました。そして有史以前の遺跡は意味が分からないが故に、放置され荒れ放題になっているのもあり、保護されていても後年の権力者の都合の良いように解釈、利用されていて、その遺跡の本来の意味が全く消されています。

- なぜ、地球だけが生物の住む星であるのか？
- なぜ、現在のあらゆる技術を用いても建造不可能な石造建築が、有史以前から世界のあちこちにあるのか？
- なぜ、人間が住むには適さない石ころだらけの荒野や、砂漠の中に突如としてあらわれる古代都市の跡があるのか？
- なぜ、主にヨーロッパの街角などに、柔らかな布や髪の毛のウエーブ、まるで生きているような表情のすばらしい大理石の石像があちこちにあるのか？

これらの多くの謎は、ソラからの情報と照らし合わせていくと、整合性を持って無理なくつながっていきました。ダーウインの進化論にもいろいろな疑問が出てきており、インテリジェンス・デザイン（ID）という創造科学も一部の科学者に受け入れられようになりましたが、現代の科学はそれぞれの専門分野だけで進んで来ており、他の分野の学問とつながることはあまりありませんでした。

既刊本「ソラからの真実の歴史（ブイツーソリューション）」に宇宙の成り立ちや日本の歴史をまとめましたが、この本では宇宙の成り立ちについての説明の補足や、人類発生の理由とその過程についてを書きました。そしてそれが、有史以前の遺跡や製作者の分からない多くの石像と関係している、ということをこの本でお伝えしていきたいと思います。

ソラのものから伝えられたことを文にしていますので断定して書いていますが、チャネリングでは情報を発信するものが言葉に慣れていないことや、情報が広範囲に渡っていて、著者の全く知らないことも伝えてくるのを、かすかな口の動きで受け取っていますので、以前に伝えられた内容と少し違っていることもあります。また、これまでの本と同じことを書いている部分がありますが、それは訂正する事柄が無くて、より真実に近くて重要だと思われる部分です。物語の筋道を踏むために必要なので、今回も繰り返して書いています。この本の内容を読者の方がどのように受け取っていただいても、それは読者の方のご自由ですが、この情報の大きな流れを読み取っていただければ幸いです。

ソラの人間誕生　―目次―

第1章　宇宙の誕生から原子の発生まで …… **15**

【宇宙の誕生そして原子の発生】 …… 16

【全ての原子には思い＝意識がある】 …… 16

【宇宙の原子たちの不満の思いを掃除して燃やした塊が地球の元になった】 …… 18

【地球を固めたのがいて座のイシカミだった】 …… 19

【ドロドロの地球をイシカミたちが包み込んだ膜がプレートである】 …… 20

【初期の地球の上空は水の膜が覆っていた】 …… 21

第2章　イシカミ …… **23**

【イシカミは地球に降りてきて山や渓谷、土などになった】 …… 24

【イシカミは岩になって宇宙の歴史を伝えている】 …… 25

【鍾乳洞はイシカミが意志を伝えるために形としてあらわしている】 …… 27

【イシカミは自分の肉体の原子に指示することで分裂・増殖が出来た】 …… 29

【イシカミの巨人は想像を絶する大きさで、その分身は川や池を造った】 …… 31

【三角の岩や山はイシカミの分身の頭をあらわしている】 …… 33

第3章　イシカミが古代遺跡などになった …… **35**
【イシカミはストーン・サークルやメンヒル、ドルメンなどになった】 …… 36
【古墳は塚から前方後円墳までイシカミの分身が固まったものである】 …… 41
【石室もイシカミの身体の一部が巨石に変化したものである】 …… 43
【イシカミの分身で顔があるのがモアイである】 …… 45
【初期のイシカミの分身はより立派な形で残ろうとして石柱になった】 …… 46
【イシカミの原子が増殖して劇場型遺跡、石造建築や水道橋になった】 …… 48
【石造建築はイシカミの分身とシリウスの合同作品だった】 …… 49
【世界中にある巨人伝説は巨大なイシジンによるものだった】 …… 51

第4章　人間の形をしたイシジンの発生 …… **53**
【イシジンはイシカミの身体から抜け出て生まれ〝お汁〟を栄養にしていた】 …… 54
【土器の壷はイシジンのお汁の入れ物だった】 …… 56
【最初の人型のイシジンはトルコで発生した】 …… 58
【アトランティスのイシジン】 …… 60
【小休止：支配星】 …… 62
【エジプトのイシジン】 …… 62

【イタリアのイシジン】……64
【土蜘蛛は日本のイシジンのひとつであった】……66
【兵馬俑は中国のイシジンだった】……67
【その他の国のイシジン】……68
【中南米や東南アジアのイシジンは支配星にだまされた】……69
【イシジンはなぜ固められたか】……69

第5章　生物の発生……**71**
【生物は岩のシリコンから発生した】……72
【星の思いでＤＮＡが出来る】……73
【星たちがＤＮＡを構成する原子に指導をすることで生物は進化する】……75
【恐竜時代の重力は小さかった】……75
【恐竜は地球上にいっせいに降り注いだ稲妻で感電死した】……76
【地球には家族愛を持つ小型の動物だけを送り込むことになった】……77
【なぜ重力が大きくなったのか】……78
【小休止：生き物と意識の関係】……79

第6章　人間誕生 **81**
【人間はなぜ生まれてきたのか】 82
【イシカミから出来たストーン・サークルで人間が創られた】 83
【小さなイシジンもストーン・サークルで生まれた】 85
【小休止：フゴッペの丸山】 86
【ストーン・サークルの中の小さな土偶が人間発生を知らせている】 86
【ストーン・サークルの後は劇場型遺跡や石箱、石室で人間が創られた】 88
【ギリシャ・ローマ式建築はイシカミの亡骸で、人間のために建物になった】 94
【イシジンと人間の合いの子がいた】 96
【イシカミの身体の原子が食べ物になった】 98
【小休止：今でも石器時代の生活をしている人たちの意味】 99
第7章　人間の身体の各部 **101**
【身体の各部位の意味】 102
【イシカミやソラのものは人間の肉体に地球の出来事を伝える】 114
【小休止：地震雲】 114

第8章　意識と肉体と病気の関係 **115**
【潜在意識と顕在意識】 116
【脳の発生と働き】 119
【脊椎の出来方】 120
【血液について】 121
【意識と病気の関係】 122
【身体からのメッセージ】 124

第9章　人間を支配してきたもの **129**
【見えない世界を利用するエネルギー体への警告】 130
【小休止：外宇宙の一族】 131
【宗教のエネルギー体が人間を支配してきた】 131
【誕生から死まで宗教の行事で支配されてきた】 133
【きれいな言葉の陰に支配が隠された精神世界】 134
【なぜリュージンが雨を支配できたか？】 135
【人間の世話をしたイシジンは宗教に取り込まれた】 136
【見えないエネルギー】 137

【人間を支配してきたものの意味】 138
【生まれ変わりについて】 139
【ホロコーストもキリスト教が関係していた】 140
【小休止：ユダの福音書】 141

付録 **142**
【ソラの釈迦とブッタ物語】 142
【ソラのイスラム物語】 145
【世界の巨人伝説とローマ式建築物】 150

あとがき **160**

第1章　宇宙の誕生から原子の発生まで

【宇宙の誕生そして原子の発生】

宇宙の始まりは何もない真っ暗闇でした。そして最初に発生したものは「何？」という〝思い〟でした。その「何？」という思いを持ったものが宇宙の大元と呼ばれるものになりました。宇宙の大元は孤独であったため、誰か相手をしてくれる存在がいないかと周りを捜し始めたのです。その思いは、何かを捕もうとするカスタネットのような動きをしましたが、するとそれに捕まえられまいとする思いが発生しました。それで、相手を捕もうとする思いが、捕まえられまいとする思いを追いかけていくことで渦巻きが出来、それらの思いが渦巻きの中心にどんどん入っていくことで極限まで収縮して、耐え切れなくなりパンッとはじけて光があらわれ、宇宙で初めての形を持つ物質「原子」が生まれました。

【全ての原子には思い＝意識がある】

このソラからの情報で一番大切なことは〝宇宙で生まれた全ての原子は思いを持っている〟ということで、そのことはすなわち〝全ての原子には意識がある〟ということです。

それは原子核の周りを電子が回っていることであらわされます。なぜ電子が原子核の周りを回っているかというと、それは原子核が電子に「私の周りを回ってね」と頼んでいること

で電子が回り続けるのです。また、空から降ってくる雪の結晶に二つとして同じ模様がないのも、水を構成する原子に意識があるからなのです。水を送り込んだ星が雪の模様のデザインを考えて、それを水を構成する原子たちに教えるので、雪は様々な模様を作って降りてくることが出来るのです。

意識はどのような形であっても、どんなに距離が離れていても、どのような遮断物があったとしても、それらに全く関係なく交流出来、遠く離れた星たちとさえも会話が出来るということです。

最初に生まれた原子は平等に一斉に生まれました。そのため、平等をあらわす平らな文字〝へ〟リウム（※1）と後に人間に名付けてもらいました。原子記号は、その原子を見つけた人に、その記号を付けてもらうようにソラのものがインスピレーションで教えます。アルファベットの形には大きな意味があります。Hは原子が手をつないでいます。Sは地球に飛び込んでも、またそこから出たいという思いがあったことをあらわします。Fは高い所から見ている大小のものをあらわします。またHeやSiなどのスモール文字が付いているのも意味

1　「ソラからの真実の歴史」ではヘリウムと記載しましたが、ソラのものによると、それは後にヘリウムになった原子のことで、宇宙誕生時にあったその原子〝へ〟リウムは、今のヘリウム原子と似ているけれども違うということです。

があります。ｅ（スモール・イー）はエントロピーのことと言ってきたのですが、現実にはエントロピーは物理学の概念であり、それと同一のものか現在のところ分からないので、スモールと名付けました。スモールは宇宙から降りてきたもので、原子より小さく意識のあるものですが、小さすぎて人間には捕まえることも計ることもできません。

原子が発生して光があらわれたことで、宇宙の大元はもっと光を増やしたいと同じ動作を続けたので、宇宙には原子たちが充満していきました。そのうちに同じ思いを持った原子同士が集まり、それらが大きな固まりになって星が誕生しました。その星たちが集団を作って楕円形にまとまったのが銀河系でした。宇宙の大元は次々と生まれる星たちをきちんと並べていましたが、そのうち並べられるのが嫌だと思う星たちがたくさん出てきて、星同士の戦争になりました。そしてその戦争後の残骸が天の川になりました。オリオンの三ツ星の形は、かつて星たちがきれいに並んでいたことをあらわす証拠なのです。

【宇宙の原子たちの不満の思いを掃除して燃やした塊が地球の元になった】

宇宙の戦争をした後も星たちの不満の思いは消えず、その不満の思いはゴミの塊となって宇宙を漂っていたので、宇宙の大元は自分の分身である「ホシノミナ」を作り、掃除をさせることにしました。ホシノミナは、まず宇宙の不満の塊などのゴミを集め燃やすために、そ

の元となる必要な原子の固まりを作りました。それは宇宙の平等をあらわす平らな形の文字の〝へ〟リウムの原子の集まりで、ホシノミナと一緒に宇宙中を回って掃除をして、不満の思いを燃やして燃え続ける火の塊になりました。（※２）

宇宙を掃除した証拠を残しておこうと思った宇宙の大元は、その火の塊を宇宙の希望の星として残すために、星の中で一番年上のいて座のものたちと相談して、太陽系のグループを作ることにしました。その後いて座のものたちは、ふらふらと宇宙を漂いながら燃え続ける宇宙の不満の塊を、膜で包み込んで固定させる計画を立てました。

【地球を固めたのがいて座のイシカミだった】

燃え続ける不満の塊を固めて固定させるために、いて座の中でも勇敢な意識のものが、四角になろうという強い意志を持って地球の近くまで来て、原子になる直前で真っ白い光の棒の彗星になり、その塊に突入しました。丸い塊の中に四角の思いを持ったものが入ったため

２　「ソラからの真実の歴史」では、鉄（Fe）が宇宙の不満の思いを集めて回ると記載しましたが、鉄が出来る以前の〝へ〟リウムのことのようで、この〝へ〟リウムにも磁力があり、それで宇宙の不満の思いを集めたということのようです。

に、ふらふらと漂っていた塊は、ようやく今の地球の位置に留まることが出来ました。その次に来たいて座のものたちは、膜状になって燃え続ける塊を包み込みました。包み込まれた〝へ〟リウムの原子たちは、膜から飛び出て外を見たいと思いました。そして〝へ〟リウムの原子たちは膜から飛び出て、飛び出た形の〝F〟になりました。そして、その後さらにたくさんの原子が生まれていき、それらが交じり合って現在の地球になりました。

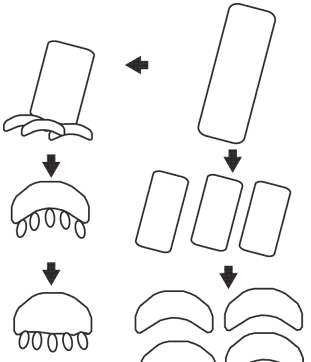
一方、いて座の意識のものが地球に降りて来た時、煮えたぎる地球に飛び込むのはとても勇気がいることでした。そして飛び込んでもここから出たいという思いもあったということを〝S〟の字であらわしました。それでもこの突入した勇気のある〝S〟をアイを持った小さな〝i〟が好きになり、一緒になってシリコンSiになりました。このいて座から降りてきた意識体が、後に私たちが『イシカミ』と呼ぶものです。

【ドロドロの地球をイシカミたちが包み込んだ膜がプレートである】

次に降りてきた真っ白い光の原子のイシカミたちは、出来るだけ幅広く広がって降りてきました。そしてドロドロに溶けた〝へ〟リウムの塊であった地球を、降りてきたイシカミたちは何体も合体して覆おうと思いました。柔らかなイシカミたちは、ちょうど粉をこねたようにしっかりと一つの塊になり、そしてできるだけ薄く延びて大きな膜になり地球を覆いま

した。けれども地球はとても大きく、覆うには広い面積が必要だったので、一つのグループだけでは覆い尽くせませんでした。それで合体したグループがあちこちにいくつも降りたために、それらがプレートの元になりました。そのグループごとにイシカミたちの思いが違うために、そのつなぎ目であるプレート境界は地震がよく起きる地帯になったのです。

次に幅広の白い棒の形で降りてきたイシカミたちは、そのままでは大きすぎるので上空で分かれて、それぞれが丸くなろうとしましたがなりきれずに、バナナのような形になって、いくつも地球に降りてきて連なった山になりました。最後に降りてきたイシカミたちは、幅広の白い棒の先からクラゲのような形に分かれて降りてきて、あるものは山や岩に、あるものは肥沃な土になり、またあるものは生物になり、地球は変化に富んだ星になっていきました。



イシカミが降りてきた様子

【初期の地球の上空は水の膜が覆っていた】

イシカミたちは膜を作って地球を覆いましたが、あまりの高熱にイシカミたちは宇宙の大元に助けを求めました。それで宇宙の大元は水星に地球を冷やすように指示をしたので、水星にいた原子たちは手をつないでＨの形で地球に降りてきました。

地球上ではイシカミの膜で閉じ込められた〝へ〟リウムが、膜の狭い穴から飛び出して〝F〟になりましたが、一部のものは〝へ〟が丸くなって酸素Oになりました。そして水星から降りてきたHとその酸素Oは結合して、水H_2Oとなって地球を冷やしましたが、Hの原子の中には地上へ降りる勇気の無いものもいました。それらは地上から離れた上空でOと結びつき、H_2Oの膜となって地球上を覆っていました。そのため地球は南極も北極も一年中暖かく、生物たちは場所に左右されることなく生きることが出来ていました。





S.Mayu

第2章　イシカミ

【イシカミは地球に降りてきて山や渓谷、土などになった】

最初のイシカミたちが地球を固めた後も、いて座の意識たちは次々と降りてきました。いて座から地球に行こうと思う意識は、意識のままで地球のそばまで来て、その意識の「～になろう」という思いに同調した原子たちが手をつなぎ、クラゲのような形で地球に降りてきました。

イシカミが地球に降りてきた時は、その身体を作った原子同士が結合することに慣れていないため、その身体が柔らかすぎて一部がぽたぽたと落ちてしまいました。あちこちに巨石がぽつんとあるのを、イシカミの「落し物」と言います。

イシカミが地球に降りてきた姿をそのままあらわすものが、オーストラリアのウルル（エアーズロック）ですが、多くのイシカミたちは団体で降りてきて連山になったり、重なり合って降りて高い山になったりしました。また、いて座が平等だったことをあらわすのに、テーブルマウンテンのような平らな山であらわしているものもいます。

一方、イシカミたちは土星から土になることを教えてもら



オーストラリアのウルル

いました。イシカミの膜で包まれて土になっただけの部分は、オーストラリアやアフリカなどの山のない大平原でよく見られる、鉄分を多く含んだ赤い土になりました。それに対して、カリフォルニアやエジプト平野などに降りたイシカミは、人間のことを思って肥沃な土になってくれました。また、人間のことよりも自分たちが地球にいたということを意思表示したいと思ったイシカミたちは、ユニークな形の岩となってメッセージを残しました。アメリカのアーチーズ国立公園には、人間の下半身の形の元になった岩が残されています。

【イシカミは岩になって宇宙の歴史を伝えている】

フランスのブルターニュ地方のカルナック列石は、大小３０００個以上もの石が３㎞に渡って何列にも並んでいます。これは、星が最初に誕生した頃は星たちが整然と並んでいたことを人間に伝えるために、この形の立石として残ったものです。

カルナック列石が整然と並んでいるのに対して、星の戦争後は星たちがばらばらになったことを人間に伝えているのが、大小さまざまな岩がばらばらに林立しているオーストラ



フランスのカルナック列石

リアのピナクルスです。周りがブッシュなのにその一部だけが広大な砂漠で、その中に岩が乱立しています。

日本でも高知県に大規模な列石がかつてあったそうですが、今ではその石が全て取り払われて芝生公園（唐人駄馬）になっています。その他の場所では、星の戦争によって出来た星の遺骸で天の川が出来たことを、石がゴロゴロと川のようになっている奈良県山添村の鍋倉渓で伝えています。

いて座では〝思い〟の強さで役割を王や女王と決めていましたが、人間世界でのそれと違い皆平等でした。そして大勢のイシカミたちが地球に移住してしまったので、いて座の真ん中が凹んで穴が開いてしまったことを、ミクロネシアのヤップ島の巨大な石貨や、世界中に散らばる平らな丸い石器であらわしています。

また世界中に丸石があるのは地球や星をあらわしていま



オーストラリアのピナクルス



綾部市資料館

すが、人間がノミで削ることでは決して出来ないと言われる真球の丸石が、南米コスタリカにあります。なぜ真球の丸石が出来るかというと、イシカミがその石を形作る原子に〝輪になってしっかりと手をつなぐように〟と指示を出すからです。コスタリカの丸石は大小２００個以上あり、直径２㎝から２ｍ以上まで、重さは２５ｔのものもあります。ジャングルの中で発見され、泥の中に数個から数十個のグループで配置されたものは、太陽系や星座をあらわしています。

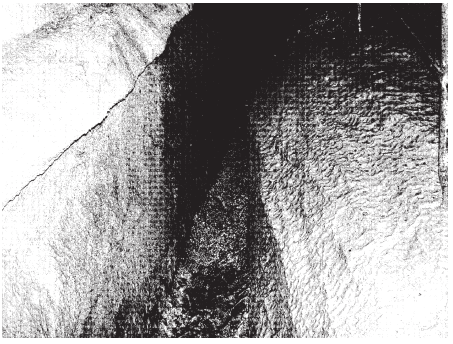
日本にもあちこちに丸石があり、静岡県岡部の丸石や、奈良県の山添村にも大小いくつかあったそうですが、山添村のものは爆破されて一番大きいものしか残っていないそうです。

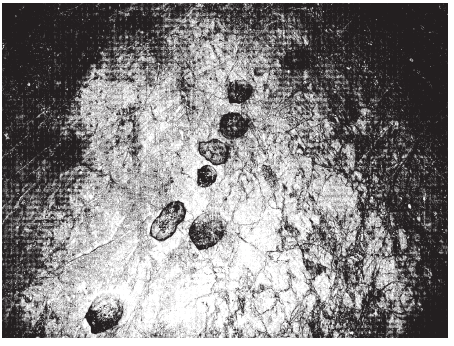
【鍾乳洞はイシカミが意志を伝えるために形としてあらわしている】

鍾乳洞は石灰岩が水で溶けて出来たと言われていますが、その学説に当てはまらない洞窟もたくさんあります。岩手県気仙郡住田町の滝観洞（ろうかんどう）は、洞内には手で深く溝を掘ったような川が流れていて（次ページ写真上）、寝床のような平らな棚などがあります。水がしたたり落ちていても石筍が全くありません。そのしたたり落ちた先が小さな穴になっているのは(次ページ写真下)、イシカミの身体が柔らかいうちに穴が出来て、身体が固まってからは水が穴に落ちてもそれ以上広がらないことをあらわしています。鍾乳洞を形成

している原子たちそれぞれが自分の意志を持っており、原子が手をつなぐのを止めてばらばらになった所は空間になり、それ以外の所は原子がしっかりと手をつなぎ合って固まりました。

トルコのカッパドキアや岩手県の滝観洞のような人工の形跡を残す洞窟は、後述の地下墳墓や横穴と同じで、イシカミの分身であるイシジン（後述）が生まれた跡でもあります。また西郷隆盛が最期を遂げた鹿児島県の西郷洞窟の窪みや、オーストラリアのウルル（エアーズロック）などにある岩の壁面の大きな窪みも同じくイシジンが生まれた跡で、後に人間が雨風を避けるために利用しました。その他にも各地で実際に人間が住んで寝床に利用した空間は、その場所の原子がイシジンになったもので、生まれたイシジンたちはその地でいろいろな仕事をしています。





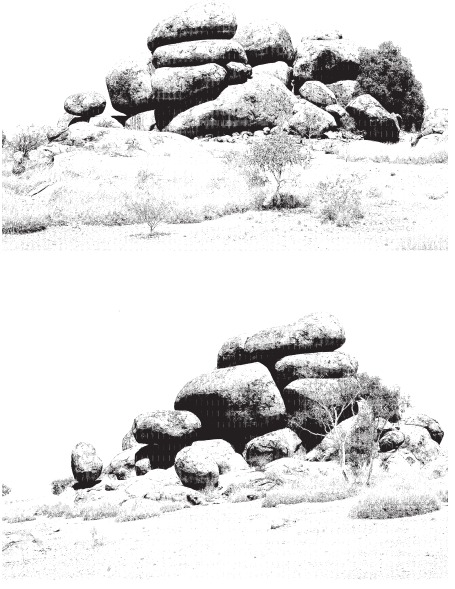
岩手県気仙郡住田町の滝観洞

【イシカミは自分の肉体の原子に指示することで分裂・増殖が出来た】

イシカミは地球で初めて〝思いを形にあらわす〟ことが出来ましたが、その身体は柔らかすぎて思うような形になれませんでした。それはイシカミの身体の原子たちがしっかり結合していないからでした。それで原子たちがもう少ししっかり結合して、少し固まった状態になってから、イシカミは原子に指示を出して、原子が仕事をするようにしようと思いました。

地球に降りてきたイシカミはシリコンの原子の塊で、後に岩になりましたが、それが分裂して分身を創っていることを、オーストラリアのマールロック（※3）であらわしています。

海岸近くで並ぶ大中小の島や、岬

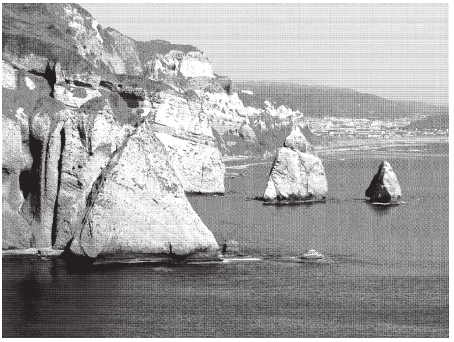


オーストラリアのマールロック

3　デビルス・マーブルスと呼ばれていますが、ここのイシカミはマールロックと呼んで欲しいと言います。

から岩が切り離されたようになっているのも、山になった親のイシカミからその分身が離れて存在していることをあらわします。親のイシカミが分離しようと思う部位の原子たちに〝手を離すように〟と指示を出すことで、その部分は単体の原子に戻って身体が切り離されていくので、どのような大きさの形にでも分かれることが出来ました。大きいものは小山の大きさのものに対して、小さいものは原子1個に対しても指示をして分かれることが出来ました。さらに分離した原子たちは親と違う物質になることも出来ました。

イシカミから最初に変化した生き物は藻で、藻の形を顕微鏡で見ると、それは多種多様な形を作っており、それぞれの原子の集まりの意志をあらわしています。また、クラゲはイチゴの芽のように増殖していきますが、イシカミはクラゲと藻を足したように、その原子が自らの意志でいろいろな形になっていくことが出来ました。そしてそれが不思議な形の岩や巨人、イシカミか



北海道室蘭市のトッカリショ



北海道余市町のフゴッペ洞窟岩絵

ら出来た石人間のイシジンになりました。その他にもローマ式の水道橋、石柱の列や万里の長城、何本もの石柱からなる石造建築などもイシカミが増殖して形として残ったもので、後ほど紹介します。

イシカミが分裂・増殖したということは、これまで解明されていなかった有史以前の岩絵でも知ることが出来ます。〝船と複数のこぎ手〟と解釈されている岩絵が世界各国にありますが、それは船をあらわしているのではなく、巨大なイシカミが長く伸びて、その上に分身が乗っていることをあらわしています。

【イシカミの巨人は想像を絶する大きさで、その分身は川や池を造った】

巨大なイシカミには意識がありましたが、こうしたいと思っても身体が大きすぎて自由に動けなかったので、仕事をしやすいようにその身体から一部が分離して、手だけを持った分身の巨人になったものもいました。それをペルーのナスカの手だけの地上絵であらわしています。イシカミたちは未来を見ることも出来たので、将来人間たちが水を必要とすることを知り、川や水路を作って水を汲みやすくしたイシカミの巨人もいました。そのことを示すものが、世界各地で見られる明らかに人工的で、何時作られたか分からないという水路や池な

どです。川なども自然に出来たのであれば高い所から低い所にまっすぐになるはずなのに、平野で自然に出来たとは思えないカーブを描いているものがあります。

イシカミの巨人はあまりに大きすぎて、人間にはそれが巨人だと分からないものもありました。しかし世界中に巨人伝説があり、巨人がいたことを伝えています。後年になってイシカミを封印したい支配星に操られた人間によって、そのほとんどが悪者にされてしまっています。

今の地中海の地域は恐竜がたくさん集まって死んだために、恐竜の骨すなわち石灰分の多い地層になったので、そこのイシカミたちは協力してその地層を大西洋に捨てて、アトランティス大陸を造りました。その時にイタリア半島とシシリー島を靴と小石の形に残して、人類はこれから支配星に支配されて進む道を誤ると警告をしたのです。

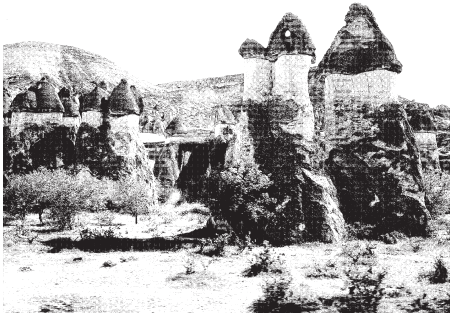
イシカミの巨人がジブラルタル海峡を作り、そこに海の水が入ってきて地中海が出来ました。そのためエジプト平野が島々だけになって沈みそうになったので、エジプトの巨人が小さな川をまとめて深いナイル川を作り、エジプト平野を西と東とに分けました。その時に一方を住みにくい地域にして、王家の谷に人間を入れないようにしたのです。

【三角の岩や山はイシカミの分身の頭をあらわしている】

イシカミの分身の大きさは、大きな山になったものから小さい石器になったものまで大小さまざまです。それらの三角の形は、すべてイシカミの分身の頭の形をあらわしています。きれいな三角山は世界各国で見られ、ピラミッドではないかとも言われているものもあります。

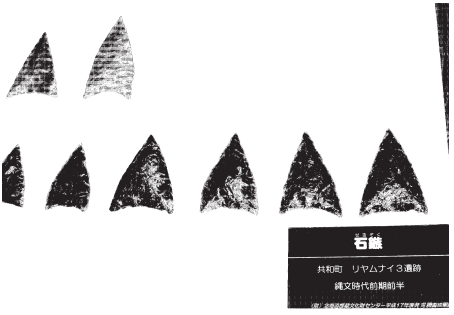
いろいろな形の分身は、カタツムリのように底辺の原子たちが動いて移動しました。それが分かるのが北海道余市町のフゴッペ洞窟のある小さな丸山です。余市のシリパ岬がスパッと切り取ったような形をしているのは、シリパ山のイシカミから分身が離れて歩いてきて、倒れた所がその小山になったためです。

次のページの写真にある、柄に取り付けることの出来ないような三角の形の石器がたくさん出土しています。それは、三角の山が巨人の頭だったことを人間が忘れないようにとイシジンが作りました。また人間には三角の山がとても大きく見えるように、小さな三角の石器は原子たちから見てとても大きな三角に見えるように作られました。原子



トルコのカッパドキア
（イシカミの分身の形をあらわす）

から見た分身の大きさを、人間から見た三角山の大きさで示そうとしたそうです。実際は原子から見るとこの三角は大きすぎますが、これ以上小さいと人間が気付かないので、このサイズになったそうです。



北海道江別市の埋蔵文化財センター

第3章　イシカミが古代遺跡などになった

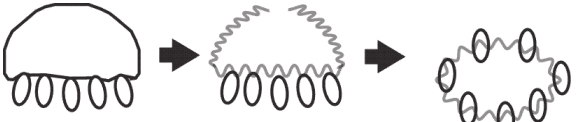
【イシカミはストーン・サークルやメンヒル、ドルメンなどになった】

イシカミたちは固まった後に山や土や小石になりましたが、大小さまざまな形に分離しても意識はしっかりとありました。また、小さなイシカミが固まってストーン・サークルやメンヒル（立石）などの石になったものもありました。

《ストーン・サークル》

タコクラゲはイシカミをあらわしており、イシカミたちはクラゲのようにゆっくりと地球に降りてきました。地上に降りた時にその薄い天井部分の原子たちが手を離して分離すると、ドームの天井を覆っていた膜は布のように落ちて原子たちが離れていきましたが、太い足はそのまま残りました。その様子は、ちょうど丸い提灯を折りたたんでいく時のようでした。残った足同士が連結して意識あるものとなり、仕事をした足の巨人になったものもいますが、その場に残ったものもいました。その残った足の部分が意識のあるストーン・サークルになり、後述の人間発生に関わってきます。

ストーン・サークルはイギリスなどにある遺跡のように、巨石で形成されているものもありますが、ほとんどが持ち運べるくらいの石なので、荒野を除い



ストーン・サークルの出来方

た平野では、後年人間が利用するためや耕作の邪魔になるなどの理由で動かされて、その形を留めるものは少ないようです。また岩になっても、それが意識を持つものだと知っていた人たちは岩を大切にしていましたが、後年になると権力者が自分たちに意識を向けさせるために、人為的に破壊したものも数多くあります。

ストーン・サークルは、北はアイルランドの荒野から南はサハラ砂漠の中というように世界中に広がっていますが、これまで何の目的で作られたか分からなかったので、保護が十分になされていません。最近の道路工事で見つかった北海道茅部郡森町の鷲の木遺跡のストーン・サークルは、火山灰で埋まっていたために破壊されることも無く、今日その姿を見ることができます。また、都会では珍しく東京都町田市などにも残されています。

《イギリスのストーン・ヘンジ》

現代の重機を使ってようやく持ち上げられる巨石を組み合わせたストーン・ヘンジは、イシカミたちが地球を固めて、支えていることを知らせる為に作られました。これらの石は、発見時に倒れていたのを人間が立て直したのですが、それはこの石たちが元はこのように建っていたということを知らせたいので、それを強く人間に願ったからでもありました。ストーン・ヘンジの周りは一面の草原や畑で、その岩の成分は２３０㎞も遠くの山と同じものです。それはその山の分身がイシカミの姿のままで、その底辺の原子たちがカタツムリの動作

と同じように動き、ここまで歩いてきたことをあらわしています。

ストーン・ヘンジはシリウスがイシカミの分身にどのような形になるかを教え、あのような形の巨石の石組になりました。そのシリウスをあらわす巨大な長方形の岩が凹凸を作ってしっかりと組み立てられています。手前の長方形の立て石は、丸みをおびた窪みが丁度顔のように見え、人間が来るのを迎えるためにその形になりました。そして離れた所にある平らな石は、このストーン・ヘンジはイシカミの身体の一部ということを証明している石です。ストーン・ヘンジの外側の円はシリウスをあらわし、内側はいて座のイシカミをあらわし、倒れているのが砂になったイシカミをあらわしています。その倒れた岩のうちの一つで大きく窪んだ岩は、イシカミの巨人が人間を創ったのに、そこが人間を生贄にする場所であった、などと嫌なことを信じるようになるのを知って、悲しんで倒



トルコのカッパドキア
（このような形のまま移動してきて
ストーン・ヘンジになりました）



イギリスのストーン・ヘンジ

れているのです。また遺跡のそばに立て石が一つあるのは、遺跡となったものの仲間で、これを造った後で人間がどのように気付くか待っているのです。遺跡の周りに小山がいくつかありますが、これはイシカミの分身で、イシカミの巨人がお汁を飲んでいたことをあらわすために、親になるイシカミのオッパイの山を造りました。

《メンヒル（立石）》

平野にポツンと立っているメンヒルは、イシカミから分離した分身が歩いて行って、そのままそこで固まった細長い石で、イギリス、アイルランド、フランスなどに多く見られます。アフリカの砂漠の中からも見つかりますが、北欧の荒野の中などにもたくさん見つかるのは、後年に農地として使われず邪魔にならなかったためです。それに対して、後年の権力者によって倒されたドイツなどではほとんど残っていません。現在も立っているもので大きいものは、フランスのブルターニュ地方にある９．５ｍのものがあります。



イギリスのメンヒル

《ドルメン》

ドルメンとはテーブル状に石が組み立てられているものを言い、建物の初期の形をあらわしています。ブルターニュ地方やアイルランドなど、特にヨーロッパにたくさんあります。この石組みはキツネやウサギなどの小動物を発生させるためのもので、ヨーロッパでは肉食を主とするように計画されていたのです。

日本では近年まで巨石遺跡が遺跡として研究されることがほとんどなく、その研究者は異端視されていました。しかしながら日本にも巨石ドルメンは存在しており、有名なのが二つの巨石の上に巨石が乗っている岩手県遠野市の続石です。山の中腹に突然現れる二つ並んだ巨石の上に、７ｍ×５ｍで厚さ２ｍの巨大な笠石が乗っています。また、五島列島の王位石も山の中にあり、高さ２４ｍもある鳥居型の上に、５ｍ×３ｍもの巨石が乗っているそうです。

縦の石はイシジンたちが変化したものです。横の石はイシジンの身体の原子が一旦分解して、それが再結合して横向になったものです。



フランス　ケルマリオのドルメン

【古墳は塚から前方後円墳までイシカミの分身が固まったものである】

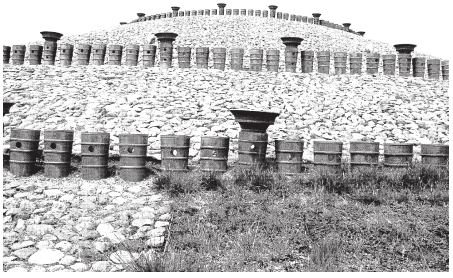
古墳はそこから出土した遺物が作られた年代に、その古墳も作られたことにされています。しかし実際には、その前からそれらは存在していました。イシカミの分身は立つと丸い部分が頭で残り半分が身体でした。そしてそれがそのまま倒れたので前方後円墳のような形になり、小さなものは円墳状などになり、その大きさはさまざまでした。

大昔の人間はこれらも意識のあるものであったことを知っていて大切にしていましたが、後年の権力者が自分たちを崇めさせるためにそれをお墓に利用して、イシカミの言い伝えを禁じたのです。そして一部を天皇の墓として立ち入り禁止にして、古墳の研究をさせないようにしてイシカミを封印してきたのです。

これらの古墳は人間が土を盛り上げて造ったというのが定説になっていますが、古墳の多い地方では密集していると言えるほど多数存在しています。人間が掘ることの出来る表土には限りがある上、人間が積み上げた土では雨で流され形をとどめるのが困難なので、道具もない時代に人間が造り上げることは到底不可能なことです。

古墳の中には葺き石（小石）で覆われたものがあります。大きなものは京都府の私市丸山古墳、兵庫県の五色塚古墳などがありますが、この粒々がある形はイチゴの形に似ていています。以前アメリカの遺跡を調査中に『イチゴ』のチャネリングがあり、『イチゴ』とは

『イシカミの誓いの語録』をあらわす言葉で、イチゴの形には重要な意味が隠されていることが分かりました。イチゴはランナーというツルで増殖しますが、イシカミの身体もそのように増殖していったということをイチゴの形であらわしています。



京都府の私市丸山古墳



兵庫県の五色塚古墳

【石室もイシカミの身体の一部が巨石に変化したものである】

石室は簡単な石を組み合わせたものから巨石を組み合わせたもの、無数の小石を乗せた立派なものまでいろいろあり、世界中に分布しています。現代の重機でも持ち上げて移動させるのが困難とされるような巨石を積んだ石室も、丸いイシカミの身体の一部が巨石になって石組を形成し、後述する人間の発生に関係しました。石室はヨーロッパの北に多く、アイルランド、イギリス、フランスなどの石室は、入り口は巨石で組み立てられ、その外側には小石が積み重ねられており、内部は狭い空間から細長い空間などいろいろなものがあります。

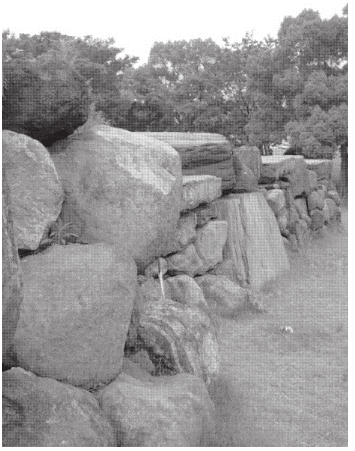
日本の場合は、前方後円墳などの中に石室はたくさんありますが、大きなものは後の天皇や豪族の墓とされてしまい、天皇の墓の場合は公開すらなされていません。

埼玉県行田市の八幡山古墳の石室は円墳の上にあったそうですが、奈良県の石舞台と同じく周りの土が削られて、石組みだけが残されたようです。円墳は直径約７７ｍ、高さ１１ｍで、石室の全長は１６．７ｍ、長さ４ｍ、幅２ｍで厚さ６０㎝の巨石などが使われています。石組みの石に



フランス　ロクマリアケールの石室
（内部が巨石で組み立てられています）

成分の違うものがあるのは、各地のイシカミの顔の無いイシジンが歩いて来て、そこに集まったからです。





埼玉県行田市の八幡山古墳

【イシカミの分身で顔があるのがモアイである】

有史以前の岩絵などに、人間とは程遠いいろいろな形や顔のある人型のものが残されています。それらは巨人から小人のような形のものまで、イシカミの分身（後述のイシジン）をあらわしています。しかし初期のイシカミの分身はシリコンで出来ていて、固まった後は石になったので、それらが意識を持って動いていたことに人間は気付きませんでした。

大きなイシカミから離れて小さくなって、いろいろな形に変化をして、あたかも人間のようになったものとして一番分かりやすいのが、イースター島のモアイです。伝説でもモアイは歩いたとされていますが、カタツムリのようにモアイの底辺の原子たちが一斉に同じ行動をすることで、あの形でも歩くことが出来ました。その他にモンゴルやスマトラ島にも、モアイによく似た手足の無いものがあります。また日本の古い道祖神などの石像も同じです。

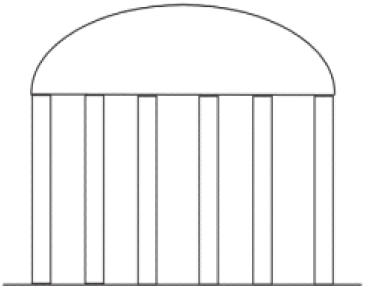
同じく動くことが出来ても顔のない初期のイシジンのひとつが、兵庫県高砂市の生石神社の巨石で、３ｋｍ離れた高御位山から歩いて来ました。テレビの形をした横６．４ｍ、高さ５．７ｍ、奥行７．２ｍの巨石で水の中に浮かんでいるように見えますが、巨石の底面が凸になって下の岩の凹部にしっかりと組み合わさっているそうです。

【初期のイシカミの分身はより立派な形で残ろうとして石柱になった】

初期のイシカミの分身は、岩と岩とが組み合う場合に接合部に凹凸を付けるとしっかり組み合える、ということをシリウスに教えてもらいました。それでストーン・ヘンジが立派に出来たので、より立派できれいな形になろうと思ったトルコのイシカミの原子たちは、手をつないで丸くなろうと思い、しっかりと手をつなぎあいました。その時初めて円柱になることが出来、それからもいろいろな形に変化出来ることが分かったので、天井の部分のイシカミの原子たちは、柱の頭の上で色々な模様になって飾りとなり、土台はいて座をあらわす円形になりました。それからシリウスに教えてもらったことをあらわすために、円形の下はいろいろな四角の形になりました。

トルコのイシカミが円柱や建物になったのを見て、いろいろな形になれることが分かったイシカミたちは、エジプトやイランでさらにいろいろな形の自分たちの理想の建物になりました。

イシカミで石柱になったものの中には、一人だけの単独の石柱になったものや、同じ思いが同じ形の柱になって列柱にな



著者が見た円柱の出来るビジョン

ったものや、二人が引っ付いて大きな門（凱旋門の形）になったものや、シリウスから教えてもらって部屋状になったりするものもいました。また円柱に溝をつけたり、四角になったり、土台だけで終わったり、いろいろな形で自己主張をするものもいました。

ヨーロッパ、中東、アフリカなどには無数の円柱があり、さらに地下に埋まっているものが次々と発見されています。ノアの洪水までは地球の大気上に水蒸気の膜があり、雨が降らなかったので天井はいらなかったのです。

人間が石柱を造るのであれば次のような疑問点が残ります。

・　巨大で完璧な形の円柱を何百本も造る石細工場や、削った石の屑が残っているか？
・　採石場が近くにあるか？
・　石柱を人間が造る場合にノミで削るが、そのノミの跡が一箇所でも残っているか？

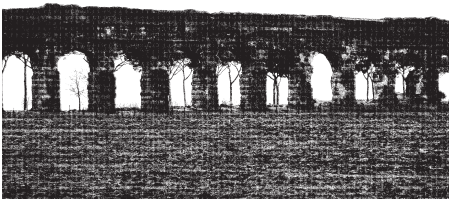
これらは全てＮＯです。列柱には同じ太さで同じ高さのものが何十本も並んだものもありますし、完璧な細かいラセンの溝が全てに彫られたものもあります。これらの石柱は全て人間が建造したものと考えられていますが、重機なしに巨大な石柱を土台の上に乗せることがどれほど困難か、実際に人力だけで石柱を立てる実験はなされたのでしょうか？

【イシカミの原子が増殖して劇場型遺跡、石造建築や水道橋になった】

ローマ時代に山から水を引くために石の橋が造られた、と考えられているものが水道橋です。ヨーロッパにはあちこちにこのような石の水道橋があり、スペインでは一晩で作られた、という伝説があるものもあります。人間が水を得るためだけなら川の近くに住めば良いですし、溝を掘ることでも川から水は得られます。人間が生活に必要な水を得るためだけに、巨大な石を組み合わせて、山から谷や川を越えてまで巨大な水道橋を造るでしょうか？

かつては１００㎞の長さに及んだと言われるものや、地上３階建ての高さのものや、近年まで車が通行出来たほどの幅を持つ水道橋があったそうですが、これらを人間が造る必要があったのでしょうか？　また少しでも勾配が違っていれば水は流れないし、少しの隙間があっても水が漏れてしまうというのに、これほどの土木技術を当時の人々は持ち合わせていたでしょうか？

水道橋は、山になったイシカミから離れた所にいるイシカミの分身たちに水を供給するために、イシカミの原子たちが競争をして、クラゲが増殖するように長く伸びていって橋の



イタリア　ローマの水道橋

形になったものです。イシカミの分身だけでなく、未来には人間も水を必要とすることを知って、それぞれがもっと立派なものを造ろうとイシカミの原子たちが思い、その思いをより優美に、よりしっかりとあらわそうと、このような橋を造ったのです。

形が変わったものでは万里の長城も同じです。万里の長城は、若者のイシカミがどれだけ長く増殖出来るか競争をして、イシカミの身体であった険しい山を越え断崖絶壁に沿って増殖して出来たのです。万里の長城の末端が泥とワラの塀になったのは、イシカミは稲を代表とする食べ物にもなったことを知らせています。ペルーの小型の万里の長城と言われるピキリャクタ遺跡は、平行して二つの石垣が長く伸びていますが、二つのイシカミの分身がどれだけ伸びて増殖できるか競争したためです。

【石造建築はイシカミの分身とシリウスの合同作品だった】

イシカミの分身はいろいろな形の石柱になれることが分かったので、自分の姿を残そうとあらゆる石柱になりましたが、より立派な作品を造ろうとシリウスに相談しました。まず柱だけが集まってひとつのグループになり、トルコのエフェソスの図書館のように、玄関は立派で部屋はひとつだけという建物になりました。その後より多くの柱になるイシカミの分身があらわれ、全体が立派な建物のパルテノン神殿のような建物になりました。

さらにより完璧な建物になろうと屋根のあるお城になり、部屋もいくつにも分けて造ったものが、バチカンをはじめ、ベルサイユ、ペテルブルグなどの宮殿です。お城は背の高いイシジンのために造ったので天井が高く、廊下が長いのはそのイシジンが横になるためでした。イシジンは口から食べ物を食べなかったのでトイレが不要でした。そのためベルサイユやペテルブルグなどの宮殿にはトイレがありません。またモスクの円形の屋根は、クラゲのように降りてきたイシカミをあらわし、大きな円形の周りに小さな円形の屋根があるのは、イシカミが分裂して分身が出来たことをあらわしています。尖塔のミナレットはイシカミのことを伝えるために筆の形にしたものでしたが、それが各地で変化していろいろな形になりました。



トルコのエフェソス遺跡
（図書館跡と言われる部分）



トルコのブルーモスクとミナレット

イシカミはその原子に指示を与えることであらゆる原子に変化させる力があったので、支

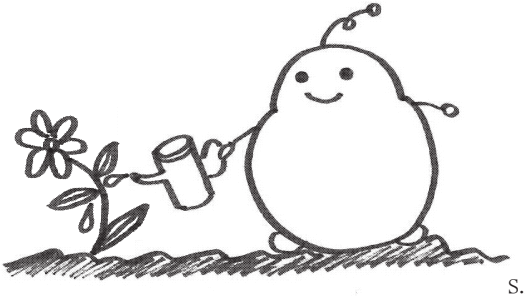
配星は若いイシカミをそそのかして自分の要求をかなえさせました。それは、お城にした後はこれ以上豪華なものはないと思えるくらいのあらゆる想像をして、イシカミの原子をそれらのものに変化させ、豪華絢爛なお城にしていきました。そして出来たお城を後年の支配星に支配された人間が争って取り合い、自分のものにして補修したり増改築したりして、今の状態で保存されてきたのです。

【世界中にある巨人伝説は巨大なイシジンによるものだった】

世界中にある巨人伝説は、イシカミの分身が人型のイシジンになったものが伝わったものです。イシジンは太陽が出ている間は動かないで、夜の間に仕事をしていました。また巨大なイシジンは大きすぎて、人間はそれが動いていることに気付かなかったので、その巨人の存在や仕事についてしっかりとは語り継がれていきませんでした。また池や水路などを人間のために巨人が造っても、後年の権力者がちょっと補修して自分が仕事をしたように伝えたため、巨人のことは忘れ去られたのです。

世界中の巨人伝説や神話もこのイシジンと関わりがあるので、巨人伝説は最後にまとめました。





S.Mayu

第４章　人間の形をしたイシジンの発生

【イシジンはイシカミの身体から抜け出て生まれ〝お汁〟を栄養にしていた】

イシカミの分身である初期のイシジンには手足が無く、あってもそれらはとても短いものでした。そのためあまり動くことが出来ず、思うような仕事が出来ませんでした。それでもっと思い通りの形になって、より細かい作業が出来るように、またいろいろな動作が出来るためにはどうすればいいか、世界中のイシカミたちとシリウスが相談して考え、お互いテレパシーで話し合いました。イシカミたちはお互いビジョンでその映像を見ることが出来たので、それぞれのイシカミが得意な分野の部品を、イシカミの原子にこのような形になるように、と指示を出して形を作りました。それがアメリカにあるアーチーズ国立公園内の頭や腕、下肢の形の岩です。それを世界中のイシカミが応用して、人間の形をしたイシカミの分身であるイシジンを発生させました。

そのイシジンはモアイと同じで、イシカミが身体の一部分にイシジンの身体になるように指示を出すことであらわれました。イシカミの身体の原子たちが指示された通りに、身体になる部分のものはよりしっかりと結合し、身体

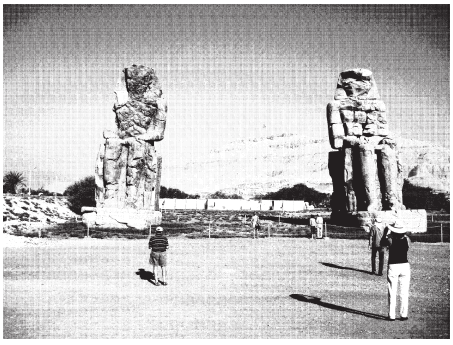


アメリカ　アーチーズ国立公園の
バランスロック（頭部をあらわす）

にならない部分のものは手を離すことで分解してイシジンの形になりました。イシジンは親のイシカミの指示通り身体から外に抜け出して、外に出るとイシカミの思いを持ちながらも独立した思いで行動していきました。

世界中で見られる岩絵には、巨人や手足の無いものや、顔が尖がった人間とは思えないような肉体、口がないもの、角のようなものが描かれているものなどがありますが、それはイシジンがイシジン自身を描いたものです。イシジンは〝お汁〟というイシカミの成分の入った水で生きていましたが（※1）、それは山の成分が溶け込んだ川の水でもよく、それを口から飲んだり、頭に乗せた壷から吸収したり、木が水を吸収するように足から取り入れることも出来ました。それをオーストラリアのカカドゥ国立公園にある、イシジンの身体をレントゲンで写したような岩絵で知らせています。レバノンのジェイタ洞窟には薄布のひだのような石筍があります。この天井からぶら下がっている薄いひだのような形の鍾乳石がイシジンの服をあらわしています。

イシジンには最初は顔がありませんでしたが、その後顔が無



エジプト　メムノンの巨像

1　イシジンにお汁を飲むことを教えたのはシリウスでした。

いと個人の区別が出来ず不都合なことが分かりました。それで目や鼻や口が出来、最後には完璧な人間の身体と同じ形になりました。そして小さな子供のようなものから大きな巨人までいろいろなイシジンがあらわれましたが、イシカミが降りてきた時期や地域によってその形や機能は大きく違いました。

イシジンの身体の成分はシリコンで、生きていくためにシリコンと水の〝お汁〟が必要でした。人間が作ったように言われている古い土器の壺は世界中にありますが、共通していることは、底が尖っていたり細くなっていたりして、そのままでは安定しないということです。エジプトなどの石像や壁画でよく見られる頭が長い像は、お汁を入れた壺を乗せたイシジンです。そのお汁は、親のイシカミの穴から出てくるのを頭の上に差し込んだ壺に入れて、その中から自然に滲みてくるのを取り込んだり、足からお汁を吸収したりして栄養にしていました。またお汁を口から飲むものもいて、それを見た人間はイシジンがお酒を飲んでいると思っていました。

【土器の壺はイシジンのお汁の入れ物だった】

頭に壺を乗せたイシジンは、お汁がなくなるとその肉体は土になりましたが、頭の壺はそのまま残りました。残ったイシジンがその壺を柔らかいうちに入り口を丸めて、人間のため

に作り直してくれたので、その壺は人間の暮らしで使われる土器になりました。丸めた壺の縁は雲をあらわし、その下の模様は雲の下でいろいろな形が（物質化）出来るという意味です。土器の口がいろいろな形になっているのは、それぞれのイシジンの思いが違っていたためです。壺の大きさは大小さまざまですが、巨大な壺の存在は、それに見合う大きな頭の巨人がいたということです。そう考えると巨石遺跡との関連が想像しやすいでしょう。

同じお汁の入れ物でも縄文式土器に模様が多いのは、イシジンが自由に形を想像して原子にその模様を指示したためです。弥生式土器に模様が少なくなるのは、支配星に操られた人たちが使うことが分かっていたためです。火炎土器など異様な感じがする模様は、イシジンが支配星にそそのかされて、人間から崇めて欲しいと思って出来たのです。



イタリア　タルクイニア国立博物館の壺

【最初の人型のイシジンはトルコで発生した】

人型のイシジンはトルコのカッパドキア（※2）のイシカミが最初に創り出しました。カッパドキアにはキノコのような岩がありイシカミの分身をあらわしています。その岩の一部がイシジンとなり、抜け出た跡に岩穴が開いています。その近くにはハトの谷と呼ばれる横穴がたくさん空いている所がありますが、それはこの地域でイシジンが創られたことをあらわしています。人間が使用するには穴の位置が高すぎて無理がありますが、イシジンは原子の結合がゆるく浮遊した状態だったので、高い所でも関係なかったのです。ただし、今も実際に人間が生活するために横穴を開ける場合もあります。

地下都市と呼ばれるカッパドキアには、1万人が住めると言われるほどたくさんの地下の部屋がありますが、人間が住むにはいろいろと無理なことが分かります。そのいくつかをあげてみました。

・　この地域には36箇所もの地下都市があるが、まだ未発見の場所が推測されるなど、これほどたくさんの地下空間を人間が作る労力は想像を絶する

2　チャネリングではカ〝ツ〟パドキアと言ってきます。

・８０ｍもの深さに掘る目的が何か分かっていない
・掘り出した土や石がどこにもない
・地下深くは崩れているそうだが、触っても崩れかけもしない固い岩である
・一部に広い部屋もあるが、人間が進むには通路がとても狭く、かがまないと通れない
・真っ暗な中で明かりはどうしていたか？　火を焚いた跡はなく、火を焚くと酸素が無くなる
・排泄をどこで行っていたか分からない
・部屋は人間が住む設計になっておらず、ただ掘り進んだだけのようである
・突然穴が空いていたりして、落下の危険がある構造になっている
・後から階段を付けないと登れない段差がある
・７０ｍも真下方向に穴が空いていて、手すりはわずかにへこんでいるだけで、到底人間が登れるものではない

敵が攻めてきた時に通路をふさぐと説明されている平たい大きな丸石は、５円玉を太く大きくしたような石で、それはいて座をあらわしています。イシジンがそれを見て、改めて自分がいて座から来た意識で出来ていることを思い起こさせるためで、穴を出て行くイシジンに、その石がドアのようになって自ら動いて見せたのです。外側からこのドアを開くことが

出来ないのは、外に出たらこの場所には戻れないということをあらわしています。

トルコのイシジンたちはヨーロッパからロシアまで広がっていき、人間たちに大きく関わっていきました。地中海近辺にいたイシカミは、自由に動ける人型をしたイシジンの形を考え、そのイシジンたちに人間を保護や指導させようと思いました。

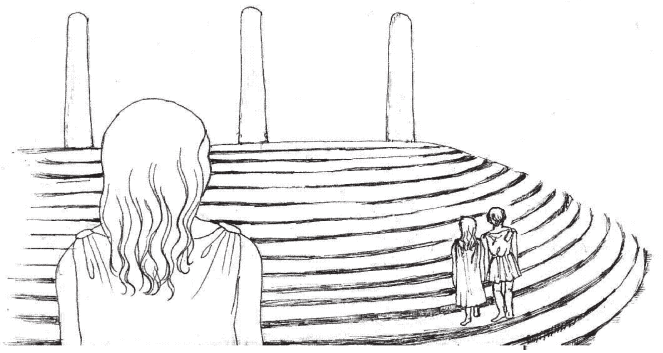
【アトランティスのイシジン】

人間の形になったイシジンたちは、大西洋に新しく作ったアトランティス大陸で、自分たちの望み通りの世界を思う存分体験しようと思いました。アトランティスでは想像する限り全ての希望を実現しました。ミロのビーナスなど完全な美を追及して完璧な領域に到達しましたが、それはただ美しいというだけで意味がないことが分かり、むなしく感じていました。食べものも果物のジュースくらいで固形物は味わうことが出来ず、変化がありませんでした。それで保養地のサントリーニ島やバミューダ島では、いろいろな食べ物を食べる人間のために、肝臓のいろいろな働きを考えました。しかし全ての希望が満たされると、何もすることがないということが苦痛に感じるようになりました。またイシジンたちは自分たちの仕事を肩代わりさせるために、いろいろな労働をするアンドロイドを作りましたが、差別が生まれ今日までその影響が残ってしまいました。

アトランティスの様子を見ていた支配星は、イシカミやイシジンたちに退屈ならば原子に戻ればよいと誘惑したので、アトランティス大陸だったイシカミやそこにいたイシジンたちは、原子に分解して海に沈んでしまいました。けれどもアトランティスの保養地がバミューダ地域や地中海地域にあったために、そこにいたイシジンたちや人間などはそのまま残り、地中海沿岸では現在もその頃の名残をとどめています。

地中海のシチリア島では、人間が容易にたどり着けない断崖絶壁に、５０００以上の横穴が掘られています。そこから１５㎝もある大きな青銅製の安全ピンなどがいくつも出土しています。その安全ピンは、そこにいたイシジンが薄い布を留めるために使っていました。

Seiko



アトランティスのビジョン

【小休止：支配星】

支配星とは大きな星のプレアデスとその仲間で、人間を支配してロボットのように争わせ、人間の恐怖心や闘争心などからエネルギーを得ていた星たちです。人間のために働いたいて座やシリウスの若者をたぶらかして、争いに巻き込ませていた星の意識です。また蛇やワニや猫科の動物など、人間が生きていくのに邪魔をする動物を送り込んだ星です。

【エジプトのイシジン】

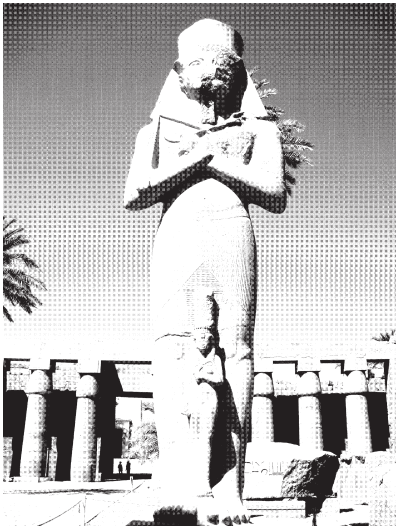
エジプトにはいろいろな大きさの石像があります。巨大な石像はイシジンの巨人で、人間大の石像は人間を世話したイシジンです。そして１０㎝弱の小さい石像は人間をあらわしています。

アトランティスが崩壊した後もエジプトのイシジンは巨人のままで生きていきました。アブシンベル神殿の像はダムが出来る前に高台に移動されましたが、発見当時は川のそばの小山に埋もれていました。これは小山になったイシカミの身体の一部がイシジンになってそこに残ったものです。川の水には山のイシカミの成分が溶け出しており、それがお汁だったので、大きすぎてほとんど動けなかったエジプトのイシジンの巨人は、ナイル川が氾濫した時

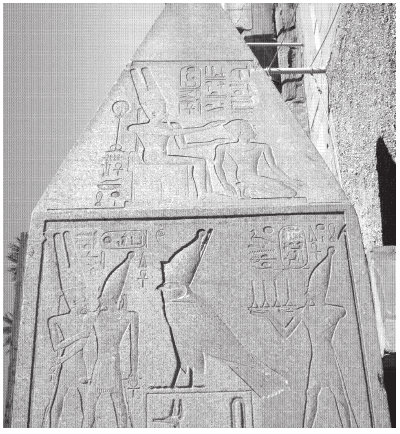
に水が足元から浸透するように川のそばにいました。

エジプトの石像にある口の下のあごひげのようなものは、口で食べ物を味わった後の食べカスをそこから出すためのものです。イシジンにはお汁を飲んで体内に取り入れる機能はありましたが、固形物を食べて消化吸収する機能はなかったためです。頭の頭巾はイシジンの巨人同士が連絡するための器官でした。

北海道札幌市の手稲山は遅くに降りたイシカミでした。地中海のイシジンたちが固められると聞いて、手稲山のイシジンは仲間のイシジンたちを何とか助けようと思いエジプトに行きました。そのイシジンはエジプトでイシスと呼ばれました。そして支配星の言うことを聞



エジプトのイシジン



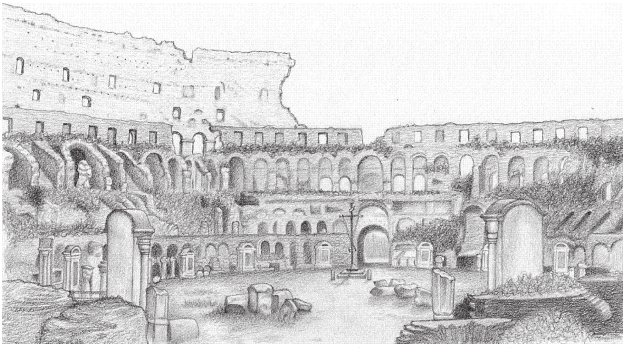
オベリスクに彫られた
お汁を飲む管を持ったイシジン

く代わりにイシジンを固めるのを遅くしてもらうことにしました。蛇を送り込んだ支配星は、人々に蛇を崇めさせるため、蛇の絵を壁画に描くようにイシスに要求しました。イシスはそれに従い、イシジンの頭に蛇の模様を付けて壁画にその模様を描くことにしたので、エジプトのイシジンの固まる時期が遅くなりました。そしてシリウスに教えてもらって、他のエジプトのイシジンたちにも急いで建築物になるように伝えました。それでエジプトにはたくさんの大きな建物や巨人の像があるのです。イシジンや巨人がたくさんの柱になり、イシジンたちは言いたいことを象形文字として残すことが出来ました。その象形文字があらわす意味は、現在解釈されているものとは違うのです。

【イタリアのイシジン】

イタリアには地下墳墓があちこちにあり、イシジンはそこで創られました。地下数十ｍの地下室はトルコのカッパドキアに似ていますが、後年それらはキリスト教に利用されました。

コロッセオは巨石を組み立てた巨大な石造建築で、剣闘士

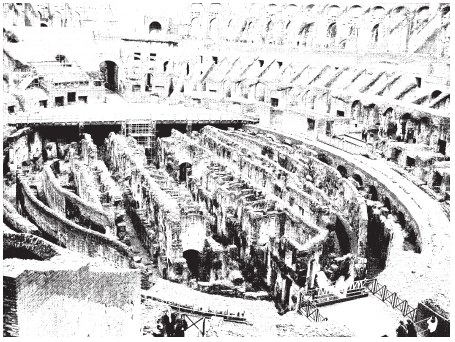


イタリアのコロッセオ（１８００年代）

の争った場として有名です。しかし見物席と言われる斜面の数少ない階段に座って中を見ると、目の前の壁のため全く中央が見えず、そこが見物席とは到底思えません。現在は中央部分が地下の小部屋に分かれていますが、１８００年代の絵では土に覆われており、そこに石柱などが転がっています。本来は中央部の小部屋は最初は地下室になっていて、そこでイシジンが創られたのです。短い斜面や短い階段は、イシジンの運動能力を調べるために造られました。そして周りの建物になった意識あるイシカミの分身たちが、人型のイシジンが動くのを見て、さらに完璧な運動が出来るイシジンを創ろうとした場所なのです。

　ポンペイはローマ人が享楽の生活をした場所と言われていますが、イシジンが人間に子孫を増やす方法を教えたことを知らせるために、ヴェスヴィオ山が噴火してそのままの形で残しておいたのです。

　現在のエジプトやヨーロッパなどの遺跡に残されている石像はほとんどがイシジンで、



イタリアのコロッセオ（現代）



バチカンのイシジン

そのイシジンは後述の人間の保護や育成をしていました。生きていた時と同じ形で残ったイシジンは、大きな巨人のサイズから小さい天使のサイズまでいろいろいました。主にヨーロッパなどに、細かなウエーブがある服や髪の毛を持った、まるで生きているような石像がたくさんあります。それらの身体は、かつてはもっと多くの水分を含んでいました。

バチカンなどの屋上に、巨大な石像を巨大な石柱の上に乗せて２０００年以上も固定することは、漆喰で固定する人間技ではとうてい出来ませんが、石像は石柱と一体なのでしっかりと固定されているのです。石像はゆうに２ｍ以上ある大きさです。

【土蜘蛛は日本のイシジンのひとつであった】

日本のイシカミは、早くから人間を自立させようと見守ってきました。人間が発生した最初の頃に巨人のイシジンが池などを造り、イシカミの身体の原子を食べ物に変化させ、それを与えると共に作物の作り方を教えました。日本のイシカミは、ヨーロッパのエデンの園でのように、人間を保護し過ぎるということはありませんでした。

日本のイシジンは人間のために働いてきましたが、ヤマトによって滅ぼされてその功績は隠され、その一部は反逆者の土蜘蛛と呼ばれて侮蔑されてきました。また人間を支配しようとした支配星に、人間に大切にしてもらえるから仏像などの像になるように、とそそのかさ

れて若いイシカミが磨崖仏になりました。そしてそれを支配星が、人間を支配するために教えた仏教に利用させてきたのです。

【兵馬俑は中国のイシジンだった】

中国の兵馬俑は始皇帝の墓と呼ばれる小山の麓の畑に埋まっていたもので、現在まで７０００余体が発見されていますが、他にもまだまだ埋まっているようです。その小山はイシカミの分身で、兵馬俑はイシカミの身体の一部が変化したものです。発見された像はまるで生きているようで、その顔の表情や服装はそれぞれ違っており、身長は２ｍを超えるものもあります。陶製で下半身は詰まっていて胴体は空洞になっており、重さは２００㎏のものもあります。一部の像は肛門まで有しています。

ここから出土した石製の鎧と兜の重さは、小さな石片をつないで出来ている鎧は２３㎏、兜は３．７㎏もの重さがあり、実戦向きではないことから分かるように、これらはイシジンが着用していたのです。兵馬俑がなぜ戦いの格好をしているかというと、中国には若者のイシカミがたくさん降りていて、彼らはせめぎあいの好きなイシカミだったので、中国大陸を戦う場所にすれば良いと言った支配星にだまされたからです。そして若いイシカミのイシジンが、支配星に言われるままに豪華な馬車などに変化したのです。

７０００余もの兵馬は胴体が空洞ですが、仮に人間が作ったとすると、２００kgにもなる非常に重いものを１０００℃の高温で焼いて出来たものになるそうです。何時敵が攻めてくるか分からないというのに、果たしてこのようなことに関わっていることが可能だったでしょうか？　また高温にするにはたくさんの木が必要ですが、そのような膨大な木を得ることが可能だったでしょうか？

【その他の国のイシジン】

インドのイシジンは人間がなかなか増えていかないので、人間が自然に生まれて増えていくように教えるエロティックな石像になりました。また巨大な仏像などもイシジンがなったものですが、それらは仏教やヒンズー教など支配星が教えた宗教に利用されています。またインドから東南アジアに広がる巨石遺跡もイシジンですが、それらも支配星が仏教の布教に利用してきました。

中米にある黒人の頭だけの石像は、イシカミは原子に指示を出すだけで希望通りの形になることが出来たので手足が必要なく、そのため身体や手足を作らなかったのです。その分厚い唇は言葉をしっかり伝えるために強調し、大きな目は思いを形にあらわして、それを見ることが出来るので強調しました。

【中南米や東南アジアのイシジンは支配星にだまされた】

遅くに降りてきた中南米や東南アジアのイシカミは、その頃地球を支配していた支配星の言うままになりました。支配星は若者のイシカミに人間を甘やかしてはいけないと言い、人間がイシカミを頼りにしないように、イシジンに恐ろしい形になるようにそそのかしたため、その通りの気味の悪い像になったり壁画を残したりしました。

支配星は恐怖心をエネルギー源にしていたので、人間に究極の恐怖を体験させるために、神官などに降りて人間を支配しました。それで地球には恐怖の思いが満ち満ちてしまいました。そして人間の意識が宇宙に助けを呼び、彗星が南米のユカタン半島に衝突して、地球の地軸が移動して環境が激変してしまいました。

【イシジンはなぜ固められたか】

支配星がイシジンを固めると脅かしたのは人間が増え始めた頃で、水があるとイシジンの命が永遠に永らえることが分かったからです。それで外宇宙のものが先頭に立って大きな星たちを仲間に引き入れ、イシジンを最初に送り出したトルコのイシカミに、イシジンを固めることにしたと伝えました。それでトルコのイシカミは、大急ぎで小鳥座に頼んでイシジン

に羽根を付けることを教えてもらい、後に天使と呼ばれる羽根の生えたイシジンを創り出して、あちこちに散らばっているイシジンに自分たちが固められることを伝えました。

イシジンたちは像として残るか、分解して人間に生まれ変わるかの選択を迫られました。像として残るイシジンの一部には、シリウスと相談して立派な建物の上に残ろうとするものもいました。石像になるといつまでもそのままなので、他のものに変わりたいと思うイシジンはブロンズ像になるものもいました。

ヨーロッパのいたる所にある石像は、人間を見守ってきたイシジンが固まったものですが、人間はそれをただの石像としか思わなくなったとイシジンは嘆いています。トルコのネムルト山上の鳥の像は、トルコのイシカミが小鳥座からイシジンに羽根を付けてもらうことを教わったので、小鳥座に敬意を表して形に残したのです。

第5章　生物の発生

イシカミの身体を構成していた原子は、生物の元になって地球上に生物を発生させました。現代の科学で定説となっていることとはだいぶ違っていますが、チャネリングで知らされたことをそのままお知らせします。

【生物は岩のシリコンから発生した】

いて座から飛来した意識体であったイシカミが、シリウスに教えてもらって〝シリ〟コン（〝S〟i）という原子に似たものになりました。そしてそれが地球で初めて生き物としてスタートする物質になりました。次のようにしてイシカミの〝シリ〟コン（〝S〟i）は藻になりました。

まず紫外線が〝シリ〟コン（〝S〟i）の殻を破り、それに水が加わって分解して、マジックテープと同じ働きで〝シリ〟コンの〝S〟が酸素（O）をひっかけて結合することで藻が発生しました。その藻になったものが気の合ったもの同士で並び、ある原子たちは中に回り込もうとし、何度か内側に集まろうとしてラセンができて、いろいろな形の藻になっていきました。〝S〟とOが結合することで〝i〟だけが残り、それが長く成長してヨード（I）が含まれる昆布などに変っていきました。

藻のシリコンの中にはもっと自由に動きたいと思う原子もいて、それがクルクルと回るこ

とで円石藻になり、次に動物プランクトンになっていきました。プランクトンになったイシカミの原子は海のゆりかごに乗って漂っていましたが、すぐに退屈になって、プランクトンだけではなくもっといろいろなことが出来る大きな生き物になろうと思いました。その様子をソラから見ていた星たちも、意識だけの世界に飽きたので地球で物質の世界を体験しようと参加してきました。

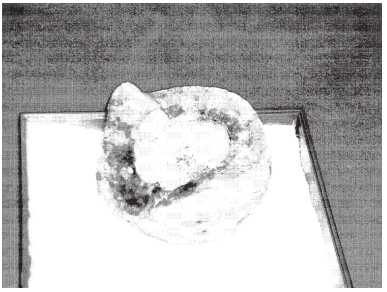
【星の思いでＤＮＡが出来る】

宇宙の空間は〝へ〟リウムで満ちています。そしてある同じ思いを持った原子が集まって塊になり星が生まれます。その星は無数にあり、それぞれの思いを地球に向けて発信しています。それらの思いが地球の生命進化に影響を与えてきました。

ＤＮＡを形作るにはその元になるものが必要です。そのＤＮＡの元になるのが原子であり、原子はアンの入った饅頭のようなものです。饅頭の皮にあたる部分がいて座からの思いであり、それは生き物として生きようという思いです。アンにあたる部分はいて座以外の星の思いであり、それは生き物の形や機能についての考えを持っています。その二つが一緒になって一つの原子となり、お互いに力を合わせて目的のものを創ろうとします。その一つの原子を鈴石であらわしています。鈴石であらわされる原子は、まず縦に並んでその次に横に

も並んで太くなっていき、これらが糸のようになって集まりＤＮＡの形を作っていきます。これらのＤＮＡがたくさん出来ると小さな丸い雲が浮かんでいるようになり、それがさらに集まってしっかりと固まった大きな丸い塊になります。

　ＤＮＡの形がねじれた梯子の形をしているのは、ねじり花で知らされるように宇宙からのエネルギーがらせん状にねじれて降りてくるからです。ＤＮＡが二本の柱で途中がつながっているのは、いて座の思いとそれ以外の星から送られてくる思いを、二本の柱の間の架け橋で伝え合うためです。つまりＤＮＡは、星の思いを受け取り、どのように身体を形作っていくかの指令を発するものなのです。



北海道名寄市の鈴石



ねじり花
（宇宙からのエネルギーはこのようにねじれて降りてきます）



北海道　積丹半島の岩
（二つに分かれてそれぞれが別な思いを受けているDNAをあらわします）

【星たちがＤＮＡを構成する原子に指導をすることで生物は進化する】

いて座のイシカミの思いと他の星たちの思いが集まって出来た原子で基本のＤＮＡのグループが作られ、それらがたくさん集まって細胞になります。植物プランクトンから動物プランクトン、そして魚へと動く範囲が広がっていき、最後に陸上動物へと進化して行きました。

イシカミが生き物を創ることが分かったので、それ以外の星たちもそれを真似して自分たちの思いを形にあらわそうと原子に号令をかけました。そのためにいろいろな生き物が生まれ進化したのであって、突然変異で偶然に新しい生き物が生まれたのではありません。星たちは自分たちがイメージした生物になるように原子たちに呼びかけ、その結果あらゆる生物が生まれていったので、そのことを星たちは昔の人に星座で教えたのです。その動物が創られた意味には、良くも悪くも宇宙のものたちが体験したい思いが入っていました。

【恐竜時代の重力は小さかった】

宇宙の星たちは同じ思いの原子が集まって出来た集団で、その思いの力はとても強いものです。星たちは自分たちの思いをあらわす生き物を次々に地球に送り込みましたが、その

原子たちは初めて動物としてあらわれたので、ただひたすら相手を倒すことしか考えませんでした。その結果、地球上には凶暴で巨大な恐竜が増えていきました。

現在のような重力があると恐竜のように大きな動物はすばやく動くことが出来ません。しかしその時代には地球の重力が小さかったために、恐竜は軽々と動くことが出来ました。また当時は地球を覆う水の膜があったので、気候は暖かく一面の平野にたくさんの草木が生えており、大きな恐竜でも餌に困りませんでした。それで南極や砂漠などいたる所で恐竜の化石が見つかるのです。

重力が小さくても恐竜の骨が強くなった訳は、恐竜を送り込んだ星のものは、石の硬さが身を守り相手を倒すのに有利だと考えたからです。そして恐竜の骨を石のように硬くすると地球を固めたイシカミの石に勝てると思い、さらに大きく硬くしていったのです。

【恐竜は地球上にいっせいに降り注いだ稲妻で感電死した】

相手を倒すことだけを考える恐竜ばかりが増えて、地球は壮絶な戦いの思いが満ちる星になっていきました。地球は宇宙の希望の星になる計画だったのに、恐竜の争いばかりが続いたので、地球はすっかり嫌になって宇宙に助けを求めました。地球が助けを求めてきたことで地球の現状を知った宇宙の大元は、分身のホシノミナに地球を掃除するように頼みま

した。ホシノミナは宇宙の原子たちに、地球を掃除したいので協力して欲しいと声をかけると、争いばかりする恐竜を見たくないと思っていた多くの原子たちが集まりました。そして原子たちが稲妻として一気に駆け下りたので、地球中に稲妻が落ちて恐竜たちは感電死してしまいました。

【地球には家族愛を持つ小型の動物だけを送り込むことになった】

宇宙の大元と星たちは、恐竜がいなくなってからの地球には家族を大切にする動物を送り込むと決め、それを地球のイシカミに伝えました。岩や土になったイシカミの原子たちの一部は、星たちから知らされた通りに、いろいろな動物の形を巨大な地上絵や岩絵としてあらわしました。そして地球の周りにいたイシカミの原子たちに、地上絵や岩絵の形の生き物になるように伝えました。三次元の形になりたいと思っていた星の思いが地球上に降りてきて、イシカミの原子と協力して、家族愛を持った新しい動物を創り出していきました。

ナスカの地上絵にもあるように、動物の中にはいろいろな動きが出来る猿がいて、それをさらに高度な類人猿にまで進化させました。けれども類人猿は雨に濡れると病気になって死んでしまうので、雨をしのぐことが出来て長生き出来るものを星たちは創ろうと思い、脳を発達させた人間を創ることにしました。

【なぜ重力が大きくなったのか】

初期の地球はほとんどが〝F〟と〝Si〟で出来ており、〝S〟と〝i〟のわずかな段差の小さな重力しかありませんでした。しかし空気中には酸素O、窒素N、水素Hなどの原子がたくさんあったので、それらが地球上のものを押し付けており、完全な無重力状態にはなりませんでした。そしてそれらのものが多かったので植物はとても大きくなり、巨大な草食動物でも食物に困ることがありませんでした。そのため大きな恐竜が地球中に繁殖し、巨大な身体を自由に動かすことが出来、巨大な鳥でも簡単に飛び上がれたのです。化石であらわれている巨大な鳥は、現在の重力では飛行機と同じような滑走路がないととても飛び立てなかったということで、恐竜時代は重力がごく小さかったと言えるのです。

なぜ重力が大きくなったかということは、言い換えれば地球の中の鉄になぜ強力な磁力が現れたかということになります。イシカミの〝シリ〟コン（〝S〟i）はクラゲのように増殖していくことが出来ましたが、〝へ〟リウムから変化したFは〝シリ〟コン（〝S〟i）のように自ら増えることが出来ませんでした。けれども〝F〟も〝シリ〟コン（〝S〟i）のようにいろいろと変化したいと思っていました。それで〝F〟は宇宙からきたスモール・イー〝e〟を養子に貰ったのです。スモール・イー〝e〟は原子より小さく意識を持つものですが、小さすぎて人間には捕まえることも計ることも出来ません。そのスモール・イ

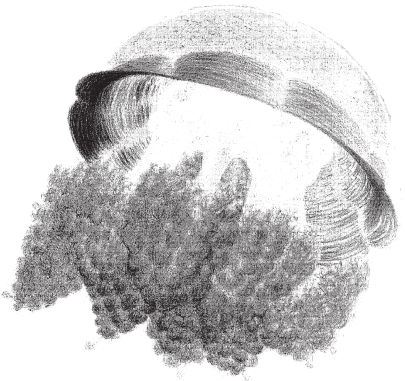
ー〝e〟が〝F〟にくっつき鉄Feになったのです。恐竜が滅んでから長い時間が経過して、人間が鉄を使うようになった頃、大きな星や星座の支配星は、Feを水力発電と同じ仕組みで〝F〟と〝e〟の高さを利用して電気を発生させ、それを利用して人間を支配しようと思いました。そして磁力が生まれて重力が大きくなりました。

【小休止：生き物と意識の関係】

動物の『白子（アルビノ）』は、生き物の最初は白い形で創られ、その後に色が付けられたことをあらわすために生まれてくるそうです。『新種の動物』が深海や密林の中で発見されるのは、それまで発見されにくかったというのもありますが、人間にすでに認められた動物がいる地域では、その地域を支配している原子たちが新しい動物の発生を邪魔するので、人間に見付かりそうにない場所で発生するそうです。

２００２年以降に日本海で『巨大越前クラゲ』が毎年大発生し、年々その数が増えています。それは地球温暖化のせいとか、中国の経済発展に伴う海水の富栄養化のせいではないかと言われています。そのクラゲは、イシカミが地球に降りてきて、クラゲが増殖するようにイシカミたちも増えていった、ということを知らせているそうです。クラゲの赤ちゃんポリプは歩いて移動し、その足跡がまたポリプに成長し、一つ一つのポリプからもたくさんのク

ラゲが生まれる、というように増殖力がとても強いことをあらわしています。イシカミたちも同じように増殖力がとても強かったので、万里の長城や水道橋など巨大な石造建築物が出来たようです。



第6章　人間誕生

【人間はなぜ生まれてきたのか】

宇宙は何もない暗い空間に、ただ岩やガスの塊が存在しているだけと思われています。けれども実際は意識で満ち溢れており、その思いを形としてあらわすことが出来るのは宇宙広しといえどもこの地球だけなのです。この宇宙において地球は〝希望の星〟となるために創られました。地球になぜ生物が存在しているかを知り、宇宙（ソラ）に意識をもつものがいることを知り、それらのことを語り伝えることが出来るような高度な知能を持った生き物を創ろうと宇宙の大元は思いました。それで地球の生物の元になったイシカミやシリウスと相談をしてデザインされたのが、後に人間と呼ばれる生き物です。人間を最初から創ることはとても困難でした。まず始めに人間型のイシジンが創られました。そしてそのイシジンに星たちの知恵が加わり、宇宙の星の意識たちの最高傑作である、五感を感じることが出来る人間の肉体が創られたのです。

イシジンはお汁というイシカミの成分の入った水や果物の汁くらいだけで生きていたので排泄しませんでしたが、人間はいろいろな食べ物を食べてそのエネルギーで生きることになるので、そのために消化吸収のサイクルを他の動物のＤＮＡから学びました。また動物の中では高度に進化した猿をさらに進化させ、雨風を防ぐ家を作る知能を人間に与えたので、人間の身体から毛を無くしました。しかし頭の毛は星をあらわすために残しておき、人間が暴

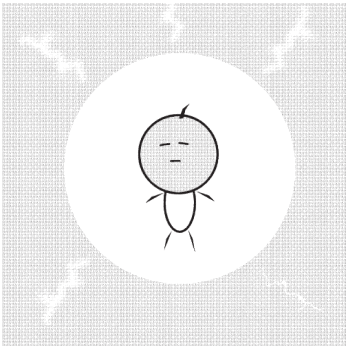
力を振るおうとした時に足や手や脇の下の毛に視線が行って、毛＝星を思い出すことが出来るように頭以外にも毛を残しました。

これらのことから分かるように、人間として生きてみたいと必死で思った原子の意識が肉体を持つことが出来たのは奇跡に近いことなので、その思いを十分に汲んで生きて欲しいと思います。

【イシカミから出来たストーン・サークルで人間が創られた】

イシカミの丸い分身から生まれたイシジンたちが、ストーン・サークル状の輪になって、その中で人間が創られました。ストーン・サークルで人間が発生したということを全く想像もしていませんでしたが、それは図のようなビジョンで知らされました。

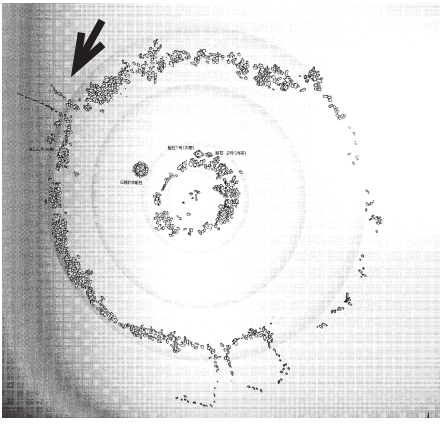
人型のイシジンが分解して原子に戻った後、イシジンだった時の形を覚えている原子たちが最初の人間になりました。人間になりたくてストーン・サークルの中に集まってきたその原子たちに、周りのイシジンたちが「オー」と号令の声をかけてエネルギーを与えて、原子たちに集合するように促し



著者が見た人間が創られるビジョン

ました。集まってきた原子たちはその声でイシジンだった時の形を思い出し、かつての仲間と手をつないで人間の肉体を形成していきました。（この本のカバーの漫画参照）

人間の形が出来てから、名のない星たちが人間の身体の内部のイシカミの原子に指示を与えて、それを内臓などに変化させ大人の人間を創りました。まず内臓では最初に心臓が創られ、そこから血管が伸びていろいろな臓器が創られましたが、その仕組みにはそれまで創られていた動物の仕組みが利用されました。ちなみに血管が伸びていくのは万里の長城が延びていったのと同じで、イシカミの原子が増殖していったためです。イシジンの号令に励まされて人間の形になった原子たちは、ストーン・サークルから抜け出て行く時に、さらに人間の身体の原子がしっかりと固まるように、両脇に並ぶイシジンにエネルギーを与えられて、見送られて出て行きました。ストーン・サークルの一部に出口があり、その両側の延長に石が並んでいるのは、サハラ砂漠や秋田県鹿角市の大湯環状列石などのストーン・サークルで同じ形が見られます。



秋田県鹿角市　大湯環状列石の配置図

【小さなイシジンもストーン・サークルで生まれた】

小さなイシジンも日時計型のストーン・サークルの場で、原子たちが集まって生まれました。そのストーン・サークルを丸いテントのように薄い膜が覆っていましたが、イシジンを生み出す仕事が終わるとその膜は壊れて石になって散らばりました。それでストーン・サークルの周りは石を敷き詰めたようになっています。

古い地蔵や道祖神や北海道のコロポックルなども小型のイシジンでした。熊本や奈良に小





ストーンサークル
（長野県富士見町の井戸尻考古館）

さな石人が残っているのは、イシジンはたいしたことがないものだと思わせるために、支配星がイシジンをだましたので、おかしな形で残ったものです。ハワイのメネフネも小人のイシジンですが、水路や建物を一晩で作るという伝説があります。

【小休止：フゴッペの丸山】

北海道余市町にあるフゴッペ洞窟の丸山はイシカミの分身でした。その小山の原子たちは手をつなぐことで形を保っていましたが、一部が手を離すことで分解して洞窟になり、小さなイシジンが岩絵を描いた後に砂でフタをして、自分たちのことを後世の人間に伝えようとしました。フゴッペ洞窟の近くに住んでいたアイヌの言い伝えでは、鍋を持たずに生ものばかりを食べていた小さな先住民族がいて、石の下の人という意味のクルプン・ウンクル（コロポックル）と呼ばれていたと伝えられています。（※1）

【ストーン・サークルの中の小さな土偶が人間発生を知らせている】

1 「おたるの図書館」ホームページ（http://www.swan2001.jp/）より

ストーン・サークルの中で人間になる原子が形をあらわしたことは、北海道室蘭市の入江貝塚の小さなストーン・サークルの中に、小さな土偶があったことでも知らせています。これはストーン・サークルの中で人間が発生したことを語り伝えていた証拠なのです。

シリウスが有珠山のイシカミに人形をこの写真の形のように残すことを教えたので、有珠山は噴火してたくさんの灰でそれらを保護したのです。後年に人間が石や土偶を動かすと、その形が崩れてストーン・サークルで人間が創られたことが分からなくなるからです。小さな土偶は世界各地で見つかりますが、残念ながらどのような状態で発見されたか分かりません。

地球で最初の人間はホシノミナが降りた綾部市星原のストーン・サークルで創られ、そこからたくさんの人間が創られ出て行ったのですが、そこのストーン・サークルはヤマトに壊されました。

何人もの人間を送り出したイシジンたちは、仕事を終え亡くなった後は乾燥していき、その原子はより密になって石になり、ストーン・サークルの形を残しました。人間は一人では生きていけないので、仲間と輪をつくり『和』が大切だと知らせるために、ストーン・サークルの輪の中で



北海道室蘭市の入江貝塚（ストーン・サークルの中に小さな土偶があります）

人間は発生したのです。

【ストーン・サークルの後は劇場型遺跡や石箱、石室で人間が創られた】

ストーン・サークルは世界中で発見されていますが、そこで創られた人間たちだけでは、人類はなかなか増えていきませんでした。そしてイシカミが降りてきてから時が経つにつれその力も弱ってきたので、人間を発生させるため、より強いイシカミの力が必要になってきました。それでイシカミたちもお互い連絡しあいながら、人間になろうとする元イシジンだった原子に、より強力なエネルギーを与えることの出来る方法を考えました。

《劇場型遺跡》

暖かい地方では周りは劇場のたくさんの観客席のように、その舞台中央にあたる部分は半円の広場になるようにイシカミの身体を変化させました。観客席に当たる場所で変化したイシカミの身体は石段のようになりましたが、その石段の一つが一人のイシジンとして全員で舞台中央にエネルギーを送り込むことで、そこに集まっていた元イシジンの原子に結合を促し人間を創りました。それから人間に階段の上り下りをさせ、よりしっかりとした肉体になるように原子に働きかけました。

人間がそれらを劇場の目的で造ったのであれば、トルコの山の急斜面に造られた半円の舞台は、とても小さくて芝居が出来そうにもありません。ギリシャの山上やヨルダンにあるペトラ遺跡の岩山の麓などは、人が集まれないような所に造られているのでその目的と一致しません。また巨大な劇場では何かを演じても声は届かず、観客席から見る舞台の人間は小さすぎて何をしているかほとんど分からなく、娯楽の目的は達成出来ません。



トルコ　エフェソスの劇場型遺跡

《石箱》

石箱はイシカミの分身がその形になったもので、その中で人間が創られましたが、その言い伝えは全く残されずに、人間の遺体を入れるための石棺として作られたと思われています。石箱の小さなものでは子供が創られ、大きなものでは大人が創られました。初期の頃には石箱に蓋はありませんでしたが、三方向から集まってきた原子に石箱の原子が声掛けをし、エネルギーを送り込んで人間が創られました。イシカミのエネルギーが弱くなってからの石箱では、蓋を造り四方からエネルギーを送り込んで人間を創りました。人間が創られた時の石箱は柔らかくて意識があったので、中の人間が立ち上がろうとすると、その蓋の原子

はお互いに手を離し、蓋が軽くなって簡単に開けることが出来ましたが、イシカミが死んだ後には蓋は石になり非常に重くなったのです。

イタリアやトルコ、レバノンなどの死者の都と呼ばれるネクロポリスなどにはたくさんの石箱が放置してありますが、石になったために重くてわざわざ運んでまで利用されなかったので残っているのです。中米のバレンケの石箱は地下２５ｍにあり、石の蓋は重さが５ｔもあり複雑な模様が描かれています。それはこの箱の中で人間が創られたことを知られないように、支配星がそのイシカミに絵を描かせたもので、その絵には意味はありません。また大阪府高槻市の今城塚古墳の石箱は重さが7トンもあり、その破片の一つが熊本産阿蘇ピンク石と同じでした。それは熊本のイシカミが高槻に来たのではなく、イシカミ同士が仲間だったので、このような成分の石になると話し合い、同じ種類の石になったのです。

エジプトのミイラは石箱の中で人間が創られたことを知らせています。エジプトの王家の谷は背後に岩山があり、荒涼とした砂漠地帯の地中深くに人間のミイラがあり、さらに多くの墳墓がまだあると言われています。それは人間が創られなくなった時に、最後の人間をそのままにしておいたからです。そして肉体が腐って無くならないように、内臓を違う成分のものにしたのです。ミイラは布を巻いていると言われていますが、それは包帯ではなくイシカミのお汁でできた布で、人間になったイシカミの原子にこのままの姿でいなさいと知らせるためでした。猫や鳥までミイラがあるのは、それらも最初は人間と同じように原子が集

まって創られたということをあらわしています。宝石はきれいなものになりたいと思うイシカミの原子がなり、壁画に描かれている人物は全てイシジンです。エジプトの壁画に『花につながっていて、ガラス管に似た筒の中にうなぎのようなものがいる』絵が描かれているのは、精子の受精は花の受粉と同じと言う意味で描かれています。ギザのピラミッドの中には蓋のない石箱があり、その角が欠けているのは、人間がその石箱で創られて出る時に、柔らかいのでつまずいて壊したものです。それを若者のイシカミがイシカミの物入れとしてピラミッドの中に納めたのです。ちなみにピラミッドは柔らかいイシカミの身体を、お汁でつくられた布でおにぎりを作るようにして積み上げていったものです。

　トルコでは一番最初に人間型のイシジンがたくさん創られました。それでそこには人間になりたい元イシジンの原子がたくさんいました。パムッカレには石箱がたくさん残るネクロポリスや、そばの小



トルコ　パムッカレそばの
ネクロポリスの石箱

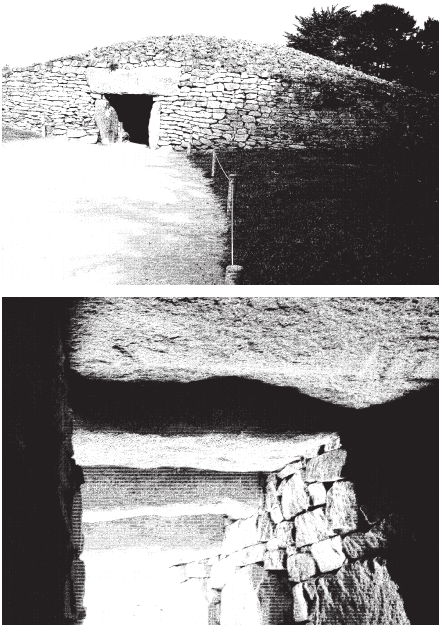


トルコ　パムッカレの石灰棚

高い丘の上には劇場型遺跡があり、さらには温泉も沸いていて、その温泉は現在も利用されています。そこの小高い丘になったイシカミは、人間を創った後すぐに温泉に入れるようにはしましたが、人間が農業をするということが分からなかったので、その近辺を農業に向いた土地にはせず、そのため辺りは痩せた土地になりました。パムッカレの温泉水は純白の半円に近い石灰棚を作り出しており、イシカミの身体も原子から出来ていることをあらわしています。

《石室》

巨石を組み合わせた石室は、その上を石や土で覆ってモスクのように丸くしたものが世界中にありますが、その丸い屋根はイシカミをあらわしています。内部はイシカミの大きな分身の原子がしっかりと結合して岩を組み合わせた空間になっており、その中で人間が創られまし

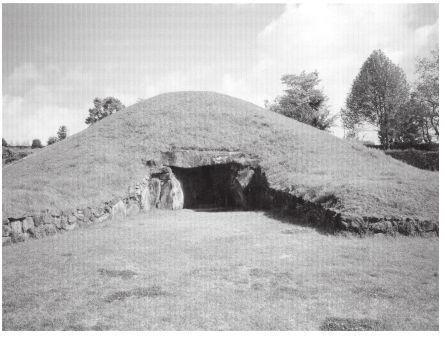


フランス　ロクマリアケールの
石室全体（上）とその内部（下）

た。ヨーロッパ北方の石室では、寒さを防ぐために小石で丸い塚を作り、その中に石室が作られています。その構造はアイルランド、イギリス、フランスなどでも見られます。石室の大きさはいろいろですが、その内部は大体が巨石の組み合わせで作られています。

丸い塚がたくさんの小石で出来ているのは、イシカミがクラゲのような丸い形だったこと、原子の集まりだったことを知らせています。そしてその塚の中はイシカミのお腹の中ということをあらわし、イシカミの身体からイシジンが出来、そのイシジンの原子が人間になったことを伝えています。この丸い塚の中で、元イシジンだった原子たちはしっかりと手をつないで人間の形を形成することが出来ましたが、まだ人間としては活動出来ませんでした。それで石室で発生した人間は、石室などの周りに沿って歩き、身体を構成している原子がさらにしっかりと結合するように、イシカミたちが力を与えていました。

日本の石室のほとんどは周りが土になっていて、石室だけが石組で造られおり、これらはきれいな丸い形が残っています。京都で蛇塚と嫌がらせの名前を付けられている大文字山のイシカミの分身は、周りの土が取り除かれ巨石だけ残されて宅地となっており、同じく石組だけにされた奈良県の石舞台と似てい



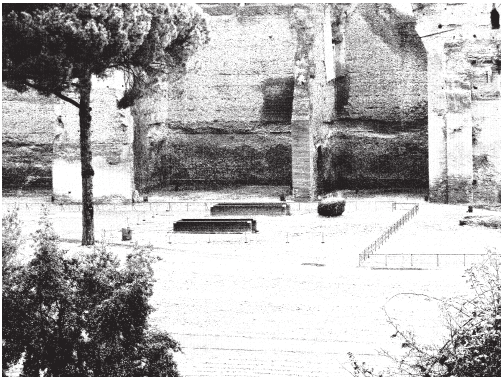
熊本県山鹿市のオブサン古墳

ます。丸い塚は人間があらわれた所だと初期の人間は知っていて大切にしていましたが、後年の権力者がお墓に利用したり嫌がらせの名前や伝説を残したりしました。それでこれらの塚が世界中に残っていても、そこで人間が発生したことは完全に忘れ去られてしまったのです。

【ギリシャ・ローマ式建築はイシカミの亡骸で、人間のために建物になった】

イシカミたちが地球に降りてから上空の大気に水蒸気の膜が出来、地球は一年中どこでも暖かく、生物が生きていくには快適でした。けれども人間を支配する支配星たちが人間に極限の苦しみを与えるために、地球中に人間の助けを求める声が満ちて、その声を聞いた世界中のイシカミたちが大泣きをしました。それで地球を覆っていた水蒸気の膜が壊れて雨となったのがノアの洪水で、水の膜が無くなったために地球上で寒暖の差が激しくなり、人間が生きていくのに厳しい気象となりました。それで遅くに降りてきたイシカミたちはシリウスに教えてもらい、人間が元気に大きくなるように冷たい風を防ぐ石の建物になり、そして暖かく過ごせるようにお風呂も準備しました。ヨーロッパ・アフリカなどにある大浴場跡は、人間をお風呂に入れるためにイシカミの身体の一部をお風呂の形にしたのです。イタリアのカラカラ浴場では、敷地内にある石箱で創られた人たちがお風呂に入って身体を温めまし

た。人間は冷たくなるとすぐに身体が弱って死んでしまうことが分かったので、その身体を温めるためにイシカミの一部がその遺跡になったのです。カラカラ浴場の一部の窓の内側がレンガでふさいであるのは、建物に最初は大きな窓を造っていましたが、冷たい風が入ってくるのでイシカミの身体の原子が蓋をしていったのです。

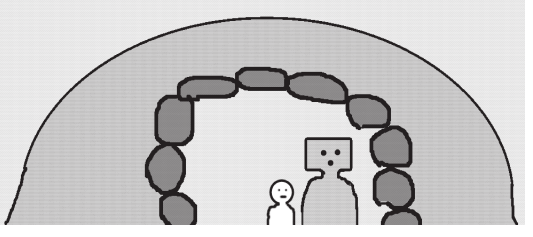




イタリア　ローマのカラカラ浴場
浴場は写真奥の空間で石箱と同居しています。石棺が人間のお墓ならばそこにあるのはおかしいのです（上）
窓がレンガでふさがれています（下）

【イシジンと人間の合いの子がいた】

〝入り口に石を積み上げた石室のような小部屋の中に、茶色の大きくて四角い頭のイシジンと白い小さな人間？が一緒にいる〟というビジョンを見ました。そのビジョンの意味は、イシジンと人間が結婚したということをあらわしたものでした。イシジンには人間の五感にあたる感覚がなく、人間にはそれがあるので、とてもすばらしいとイシジンは思いました。人間はとても弱くてすぐ死んでいきましたが、それでもイシジンは人間になりたいと思っていました。イシジンは、人間が死んでもその身体の原子はまた新しい身体になれることを知っていたので、死ぬことが怖くなかったからです。イシジンはイシカミの身体から分かれて次々と生まれてきましたが、人間になるということはなかなか難しく、それでイシジンは人間と結婚したのです。そして子供が生まれたのですが、生まれてきてもイシジンのＤＮＡが強いとイシジンの特徴を持ち、食べ物を食べて生きていくことが出来ませんでした。その頃にはイシカミが弱ってお汁が無くなりかけていたので、イシジンに似た子供は死んでいくしか仕方がありませんでした。けれども人間のＤＮＡが強かった者は、口から食べ物を食べて栄養が取れたので生きていくことが出来ました。イ



著者が見たビジョン

シジンは石像を見ても分かるように、生きている時は人間と同じでした。人間と結婚すると、人間になりたいイシジンだった原子が精子になって、人間の卵巣に入って妊娠しました。初期の人間の男性は生殖機能が働かなかったので、人間同士では結婚が出来なかったのです。イシジンの男性はたくさんいましたが、人間の女性は少なかったのです。そのため女性は、子供を生む女神として大切にされました。そしてポンペイのイシジンやインドのイシジンたちが石像でその形を残して指導したので、人間の男性も次第に生殖能力を持つようになりました。

　イシジンのお陰で暖かなお風呂に入ることが出来、おいしい食べ物も与えられた人間は、何の苦労もせずに人間に生まれた目的を達成していたことを、エデンの園の物語として伝えています。それを見て次々と元イシジンの原子たちが人間になるためにやってきて、さらに人間同士からも子供が出来たので、人間の人口は増えていきました。そのために、まず食べ物などが足りなくなって人間同士で争いが始まり、その人間の世話をしていたイシジン同士も争うようになりました。それで仲間が嘆き悲しんでいる姿を石像で残し、人間は争いをしてはいけないと教えました。



イタリア
スペイン広場そばの教会内の石像

【イシカミの身体の原子が食べ物になった】

イシカミの身体を構成していた原子たちは、プランクトンから魚になり、人間の食べ物となりましたが、山や土になったイシカミの身体の原子も人間の食べ物に変わりました。山芋は山の中に出来ます。それは山になったイシカミの身体の原子がその身体から外に出たいと思い、それにイシカミが力を与えて早く違う物に変わらせようとして、人間の食べる物に変わったためです。そして山芋になった原子たちは、人間に食べてもらって肉体の中を見物した後、そこを抜け出て違う物に生まれ変わります。このようにイシカミの身体の原子が自ら考えて、それにイシカミが力を与えて食べ物が出来ました。

イシカミが力を与えていた頃に出来たいろいろな食べ物は今日まで残っていますが、イシカミが食べ物に変わったということは全く伝えられていません。それは、後年の権力者によってイシカミのことを全て忘れさせられたためです。日本神話のオオゲツヒメは体内から食べ物があらわれたように書かれていますが、それは嫌がらせのように書かれています。

マダガスカルには一年中イチジクがなる木がありますが、人類が発生した頃はそれと同じように一年中食べ物がありました。イシカミの身体の原子が人間の食べ物に変わっているので、食べる時には感謝をしていただくことが大切です。食べ物になったイシカミの身体の原子も、人間に食べてもらうことにより、違うものに生まれ変わることが出来ます。

【小休止：今でも石器時代の生活をしている人たちの意味】

なぜ今も石器時代のような生活をしている人たちがいるかというと、最初の人間が生まれた頃を忘れないようにするためです。彼らは絶滅の危機に陥っています。最初に人間が創られた頃は、人間は弱くて長く生き続けるのはなかなか難しいことでした。そしてその弱い人間が子孫を残すことはもっと大変なことでした。そのため昔の人口は、今の人々が想像しているよりももっと少なかったのです。

ローマ時代も、今の人が想像しているよりもはるかに人口が少なかったのです。それなのに同じような石造建築があるというだけで、アフリカの砂漠の中のものも全てローマ軍が造ったということはとても無理があります。

・　なぜ険しい山や断崖のそばや荒野や砂漠の中に石造建築群があるのか？
・　荒野の中や険しい山に何万人もの人が座る劇場は必要があるのか？
・　その劇場に座る人たちはどこに住んでいたのか？

周りが石ころだらけの荒野や、半分砂漠で食料や水が到底得られない地域で人間が住んでいた気配すらない所にあるものもあります。高度経済で栄えていた日本が、高速道路を作り、箱物を造り過ぎたというだけで国の経済が破綻寸前になりました。物々交換が主で食物を得るために多くの労力を要したであろう時代に、掘っても掘っても下から石造建築物が出

てくるくらいたくさんの建造物を造れたでしょうか？　そしてローマ人はアフリカからヨルダンまでも支配して石造建築物を造っていたと言えるでしょうか？　フランスのロクマリアケールには、巨大な石棒が３つに折られたものが石室のそばにあります。それは人間は石室で創られたのに、後年にはそのことを伝えないと分かっていたので、そのことに抗議して筆（石棒）を折っているのです。



フランス
ロクマリアケールの折れたメンヒル

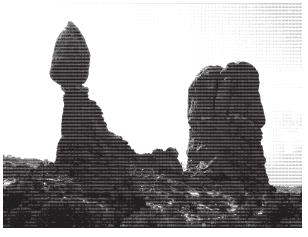
第7章　人間の身体の各部

【身体の各部位の意味】

初期のイシジンは足も手もなく、あってもとても短くてあまり動ける範囲が広くなく、思うような行動が出来ませんでした。それでもっと思う通りの形になって、より細かい作業が出来るように、またいろいろな動作が出来るようになるにはどうすればいいか、世界中のイシカミたちとシリウスが相談して考え、お互いにテレパシーで話し合いました。そしてそれぞれのイシカミが得意な分野の部品を、イシカミの身体の原子にこのような形になるように指示を出して形を作ることにしました。それを世界中のイシカミがテレパシーで連絡し合い、人間型イシジンを発生させました。その部品をあらわす作品が世界中の岩に残っています。

『髪の毛』
頭の上にあるもので、ソラの星たちをあらわします。

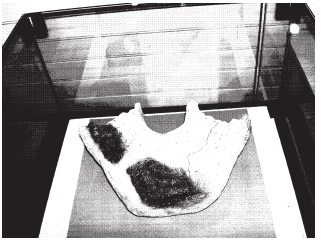
『頭部と首』
バランス・ロックが各地にありますが、それらは頭部をあらわしています。



アメリカ　アーチーズ国立公園の
バランス・ロック（頭部）

『脳』

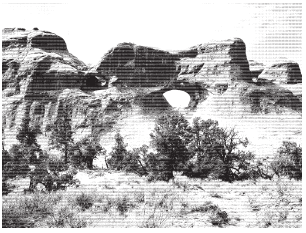
イシカミの巨人は、イシカミからお汁を取り入れるため、頭に角のような管がありました。下の写真はそのお汁の管をあらわしているのと同時に人間の右脳と左脳もあらわしており、このようなものを頭蓋骨内に無理に詰め込んだので脳にシワがあるのです。



北海道立埋蔵文化財センターの
縄文土器（脳）

『目』

目を通して脳に神経がつながり、色や形が見えるようにしました。白目は潜在意識をあらわし、黒目が顕在意識をあらわします。同様に右目が潜在意識をあらわし、左目が顕在意識をあらわします。あちこちに目をあらわす二つの穴の岩がありますが、人間は潜在意識を認めないので、それらの穴は片側が閉じていたり小さかったりします。



アメリカ　アーチーズ公園の
二つの並んだアーチ（目）

『眼窩（頭蓋骨の目の部分のくぼみ）』

左の眼窩は地中海をあらわし、右の眼窩はメキシコ湾をあらわします。

『睫毛』
むやみに長い睫毛はソラのものをあらわす髪の毛を見えないようにするので、ソラのものを否定して現実のことだけに意識を向けやすくなります。

『耳』
静岡に耳石という耳の形をした石があります。耳鳴りは、イシカミが知らせて欲しいというので知らせているのです。

『三半規管』
カタツムリに似た渦巻きは、宇宙が宇宙の大元の渦巻きから始まったことをあらわしています。

『槌骨（つちこつ）』
ベルのような形をしており、宇宙からベルを鳴らしてサインを送っています。

『口』


三重県　ご在所岳のおばれ石　（口）

ご在所岳のおばれ石は、２枚の巨石が平行して立っていて口をあらわしています。山が話すこと、すなわちチャネリングがこのイシカミから始まることをあらわしました。

【唇】

上唇は二つの山のイシカミがいる、すなわち意識の世界と現実の世界にいるということをあらわしています。下唇が一つなのは海の底にもイシカミがいることをあらわしています。

『歯』

大きな石の中に小さな石が並んではめ込まれて、それで歯の形をあらわしています。歯の岩の作品は、兵庫県の目神山や福岡県の太宰府天満宮境内などあちこちにあります。

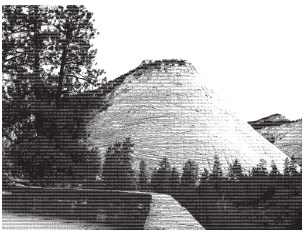
『顔のシミ』

顔は地球をあらわし、顔にある大きなシミがどこにあるかで、その人が過去世でどこで生きていたかを知らせる場合もあります。それは過去の人間体験をあらわしており、成長した意識の持ち主なのです。左目横のいわゆる肝班はアトランティスでの過去世をあらわし、右側のシミはアメリカ大陸をあらわします。シミがないのは過去世で人間の体験があまりなく、意識が幼いとも言えます。

『心臓』
宮崎県の鵜戸神宮前の写真で、滑り台のように見えるのが太い血管をあらわし、そこには細かい血管も作られており、上部の丸石は血管の弁をあらわしています。


宮崎県　鵜戸神宮前の巨石（心臓）

『胃』
ローマのオッピオの地下水道内のブドウを踏みつけている壁画は、固形物を流動物に変えるという意味で、食道から降りてきたところにある胃をあらわします。アメリカのチェッカーボードメサの岩も胃をあらわします。


アメリカのチェッカーボードメサ（胃）

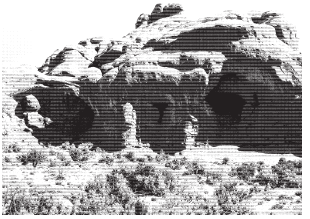
『血管』
人間の血管は川をモデルに創られました。血管の末端での酸素交換はマジックテープでくっつける作用と同じです。静脈瘤は潜在意識が表に出ていることをあらわします。

『赤血球と白血球』
北海道の神仙沼に生えている赤い水芭蕉（ザゼンソウ）で赤血球

を、白い水芭蕉で白血球をあらわしています。

『食道、気管、口蓋垂（喉ちんこ）』

シリウスが食道と気管が交互に働くように考えたものを、アメリカのアーチーズ国立公園にある岩であらわしています。３つのアーチが相談して、食べ物が入る時に食道を開けて気管を閉じるように指令を発するのです。アーチは筋肉をあらわし、３つの筋肉が口蓋垂で一箇所に集まっていることを知らせています。



アメリカのアーチーズ国立公園
（食道、気管、口蓋垂）

『肺』

広島県帝釈峡の白雲洞は、洞窟の突き当たり奥から新鮮な空気が入ってきて、肺に空気が入ることを知らせています。サハラ砂漠では地球が呼吸をしていて、砂漠は地球の肺になっているのです。



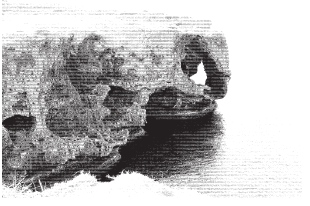
広島県帝釈峡の白雲洞
（肺）

『肋膜（ろくまく）』

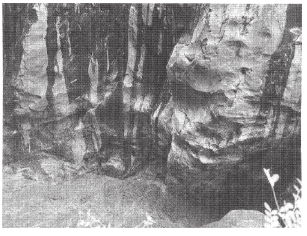
六甲山は肋膜を考えたイシカミで、肋膜で酸素Ｏを燃やして肋膜の浸出液をかけて火を消し、身体の熱を発生させます。

『直腸』
人間が横になるとお腹は平らになり、その下に窪みがあることを沖縄の万座毛のイシカミが知らせています。

『大腸』
台湾のタロコ渓谷は大理石の滑らかな渓谷で、栄養を取った後のカスを早く外に出す、滑らかな管の大腸を知らせています。


沖縄の万座毛（直腸）

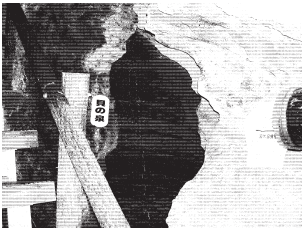
『腎臓』
北海道中頓別の鍾乳洞は巨人が海から運んできた珊瑚を固めたもので、珊瑚で水を濾過し、鍾乳洞の中には丸くくり抜いたような穴が二つ並んで空いていて、いずれも上から水が落ちてきています。それは腎臓をあらわしています。

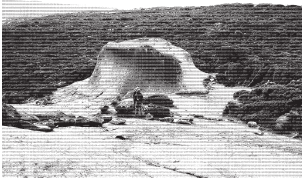

台湾のタロコ渓谷（大腸）

『肝臓』
肝臓はアトランティスの国を真似た大きな形で、解毒作用などたくさんの働きをします。

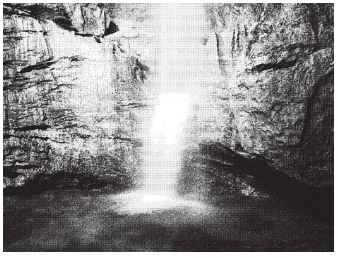
『盲腸』
潜在意識の集まるところとして創られ、進む道が違っていると炎症を起して警告します。

『脊椎』
シリウスが脊椎を考えました。脊椎をあらわす岩はシリウスをあらわす臼型をしており、オーストラリアのカンガルー島にあります。背骨を一本の骨にすると、各臓器につながるための神経が骨から出ることが出来ないので細かく分けました。


北海道　中頓別の鍾乳洞（腎臓）


オーストラリア　カンガルー島の
リマーカブルロック（脊椎）

『脊髄液』
岩手県の滝観洞は細長い洞窟で、その奥で高い所から滝が落ちています。それは脊髄液が頭蓋内で生産されて、脊髄を通るために首から落ちる、ということを知らせています。

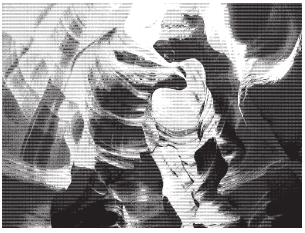

岩手県住田町の滝観洞奥の滝
（脊髄液）

『女性器』
アメリカのアンテロープキャニオンにある、長くて滑らかで不

自然な岩の割れ目であらわしています。ヨルダンのペトラにあるシークも同じ意味をあらわしています。

『肩』
ご在所岳の岩で肩をあらわしています。

『腕』
アメリカに大きな団子がひとつ串で刺した形の岩があり、団子が筋肉をあらわします。


アメリカのアンテロープ
キャニオン（女性器）

『手』
アメリカのモニュメント・バレーの岩で手をあらわしています。

『指』
指が5本なのは、2本の両腕＋2本の両足＋胴体をあらわしています。


三重県　ご在所岳の地蔵岩
（肩）


アメリカのモニュメントバレー
（手）

『指紋』
イシカミの巨人が岩で不思議な形の作品を作っても、人間がイシカミを認めないので、広島の宮島行きフェリー乗り場にある岩では、巨人が怒って指を突っ込んでいます。また淡路島の南にある沼島には指紋岩があります。

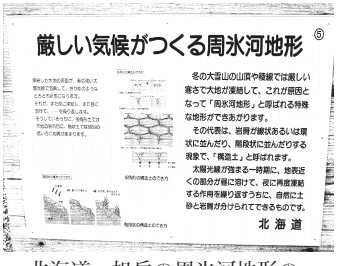
『爪』
爪は物質と生き物との間のものをあらわします。

『皮膚』
北海道の旭岳には周氷河地形の構造土があり、それは亀甲、円形、網状、条線、階状をあらわしています。旭岳は皮膚を考えたイシカミです。

『右半身と首から上』
潜在意識をあらわします。



広島県の宮島行きフェリー乗り場
そばの岩（指紋）



北海道　旭岳の周氷河地形の
構造土（皮膚）

『左半身と首から下』
顕在意識をあらわし、顕在意識と潜在意識がバランスを取りながら進んでいくことが出来るように、首で神経が交差しています。

『腰から下』
進む道をあらわします。

『おへそ』
ハワイは地球のおへそをあらわしています。イシカミが地球を覆ってしまったために、地球の中に閉じ込められたイシカミが、ここから溶岩になって外に出ることが出来るようにしています。

『下半身』
アメリカのアーチーズ国立公園にあるデリケート・アーチは、ひざ関節を持ち、靴を履いているように作られ、その横には足の指が3本作られています。未来が見えるイシカミは、サンダルを履いている人間を見て指を3本作ったのです。巨大な岩で人間が近づいて壊されないような所に置いてあり、その岩を離れて見るための長いベンチのような岩もあります。

足のツチフマズが楕円をあらわすいて座で、カカトとアキレス腱がシリウスをあらわします。足首から上はイシカミの巨人をあらわし、丸と四角の台座のある石柱でそれをあらわしています。イシジンはイシカミと同じように原子に意志を伝えることが出来、原子もそれに対して反応したので、イシジンは手足が無くても思う通りのことが出来ました。けれども人間は原子に意志を伝えることが出来なく、また他人に対しても言葉無くしては意志を伝えることが出来なかったので、仕事が出来るように手足を創りました。



アメリカ　アーチーズ国立公園の
デリケート・アーチ（下半身）

『尾底骨』

人間になりたいと思って集まった原子のうち、余った原子がここで形になりました。ナスカの地上絵にある、尻尾が渦巻きになるほど長いサルは、形をあらわしたいと思う原子がとても多いということをあらわしています。また渦巻きは宇宙の大元をあらわしています。

【イシカミやソラのものは人間の肉体に地球の出来事を伝える】

イシカミやソラのものは人間の肉体に対して地球の出来事を伝えてくることがあります。親指＝シリウス、人差し指＝いて座のイシカミ、中指＝宇宙の大元、薬指＝ホシノミナ、小指＝地球、右手首＝イスラエル、左手首＝パレスチナのことを知らせますが、人により知らせてくる地域が違うことがあります。また痒みや耳鳴りなどのサインで地震などを知らせることがあります。

【小休止：地震雲】

イシカミやソラのものの意識は、知らせたいことを雲で伝えることも分かってきました。断層雲や太くて形のきちっとした棒状雲、はっきりとした放射状雲、長い縦雲、強烈な夕焼けの色、縦の虹など、地震の前にそれらで知らせます。

第8章　意識と肉体と病気の関係

以下のこともチャネリングで知らされたことなので、真偽のほどは分かりません。意識は見えないものでありまだまだ分からないことが多いですが、これまで知らされたことをまとめてみました。

【潜在意識と顕在意識】

人間が他の動物と決定的に違う点は、動物には顕在意識しかありませんが、人間には顕在意識と潜在意識があるという点です。（ただし犬の一部は潜在意識を持つものがいます）人間は肉体を持つ時に、特定の星からの意識を持って地球にやって来て、その意識がＤＮＡに組み込まれます。それが潜在意識です。そしてその星から送られてくる意識を身体全体の細胞で受け取り、それが身体へのサインやひらめきなどになります。

人間として生きている時の出来事は、その人の潜在意識と星が話し合いをして決めます。顕在意識では想像も出来ないことでしょうが、このことはとても大きな意味を持ち重要なことだと思っています。こういうこともあると頭の片隅に置いておくと、あらゆる出来事は意味があって起きている、ということに気付く場合が多いからです。そしてそのことに気付くと、人を憎むということから解放されやすくなります。肉体は原子から成り立っていることを知り、肉体の細胞全てに意識があるということを思って生活をし、潜在意識があるという

ことを認めることが大切です。

一方で人間の潜在意識を送り込んだ星は、ＤＮＡの中にある潜在意識とは別の所に意識の塊を創ります。それがその人の生まれた場所の上空・成層圏の外側です。その意識の塊が顕在意識です。それをあらわしたのが下の写真の縦向きの雲で、一本の縦雲が一人の人間として生まれた時に創られた顕在意識をあらわします。この雲の周りに新しく体験した意識が加わって、さらに成長した顕在意識になります。人間の顕在意識は成層圏の外側から地上の肉体の脳に送られてくるだけなので、星が人間を支配しているということではありません。その人が顕在意識を肉体以外の所に置いているだけです。



顕在意識の塊をあらわす雲

人間が発生した最初の頃の顕在意識は、成層圏の膜と、かつて成層圏の内側にあった水蒸気の膜の原子にチェックされ、悪い思いが人間に送られないように計画されていました。しかし悪い思いの星は彗星になって地球に降りて人間を支配していきました。そして成層圏の内側の水蒸気の膜が無くなってから、悪い思いがチェックされにくくなったのです。

人間の顕在意識がなぜ成層圏の外側で作られるかというと、人間は何度も生まれ変わっていろいろな体験をして、そのことで意識を成長させるためだからです。また肉体が分解すると、それまでの体験で得た思いを持った原子が地球上や成層圏の辺りに残ります。その思

いを持った原子たちは、また人間として生まれたいと強く思います。その思いが新たな肉体に残っているので過去世の一部を垣間見たりしますが、それはあくまで一部の原子だけなので、同じ過去世を持つ人が何人もいる可能性もあるわけです。

人間の顕在意識は例えると剣玉の玉と同じであり、また人間の肉体は剣玉本体と同じです。穴の開いた剣玉の玉は自由に動き回れますが、紐でつながっている限り剣玉本体からは離れません。玉があちこちに行くことは、人間の顕在意識がいろいろな体験をするために、冒険しようとしていることをあらわしています。顕在意識は剣玉の玉のように、命のある限り肉体から離れませんが、肉体が無くなると紐も無くなり、意識の固まりはソラに昇ってばらばらになります。ただし、宗教に強く囚われたまま亡くなると、その意識はソラに受け入れてもらえずに地球の近くでうろうろするそうです。また、目で見てきれいだと思った思いは脳で発生するのではありません。剣玉の紐を通して玉がきれいだと思い、その玉の思いが紐を伝わり口から「きれい」と発するのです。この場合に脳は、目で見たことを成層圏の外側にある顕在意識に伝えた後、顕在意識の指令を受けて言葉を発するように口に命令するだけなのです。

顕在意識の塊の位置は人によって高さが違い、低い所にある人は亡くなった人などの意識の影響を受けますが、高い所にある人はソラのものなどとつながって知らせを受けます。これが次元の違いというものです。

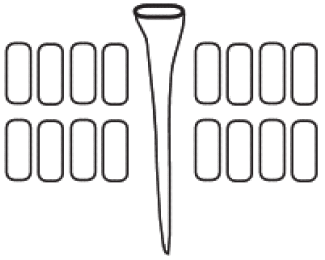
【脳の発生と働き】

イシカミのシリコンが増殖していくのを真似て脳の神経細胞が創られました。脳の中に神経の枝があるのは、死が訪れるまで脳が成長出来るようにするためで、神経の芽が伸びていくのはその人の脳が新しいことを知りたいからです。脳は受信器なので、視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚の五感を脳で受信して、それを上空の顕在意識に送ります。意識は距離とは関係がないので、遠く離れた成層圏の外側であってもすぐ頭上にあるのと同じです。顕在意識はその人間にしかつながらないので、その人の周りのことしか見えなく、成層圏の外側にあっても自分の周りの狭い範囲のことしか分からないのです。また脳はその肉体を生かすために、神経を使って身体の原子に指令を送り、原子たちをそれぞれの分野で働かせます。

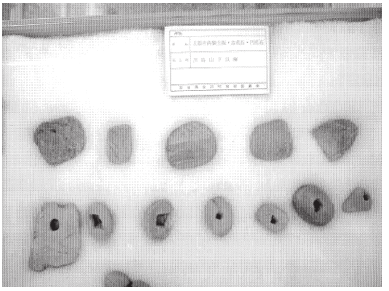
なぜ顕在意識を受信出来る脳を創ったかというと、星の仲間には悪いものがいるので、悪い星の意識（潜在意識）を顕在意識で判断して良い方向に向かわせるためです。支配星など宇宙の法則に反している星の意識と関係ある人は、人間の肉体を持った時に軌道修正すると、自分の意識が生まれた元の嫌な星に戻らなくても良いことになります。しかし生まれてくる前の思いを無視して顕在意識を重視して生きると、再び嫌な星に戻ることになります。

【脊椎の出来方】

人間が自由に手を動かして物を作るためには、人間が立っている縦の形がどうしても必要だったので、原子たちが話し合って次のようにした、とビジョンで知らされました。まず原子たちはシリウスをあらわす長方形になって手をつなぎましたが、真ん中に入るものが蛇の形に似ているので、その部分だけ原子で手をつなぐものがいなくなり空間になりました。それで真ん中が空いた臼型（臼はシリウスをあらわす）の骨になり、それが縦向きに並んで脊椎が出来ました。そして真ん中のうなぎの赤ちゃんのようなものが脊椎の中に入り、脊椎の間をどんどん伸びて神経になり、ついには脳にまで到達しました。このように脊椎の中に穴を開けて神経を通すようにしたことを、宮城県女川町の出島から出土した四角い穴の開いた小石で知らせています。そしてその管が脊椎の間から出て行ってどんどん伸びていったのが末梢神経で、伸びたその先々でそれぞれの臓



脊椎が出来る前の状態のビジョン



宮城県女川町出島の
脊椎をあらわす石

器を捕まえ、脳からの指示を送りました。そしてそれらを保護するために、原子たちが集まって筋肉や皮膚を作っていきました。

【血液について】

血液中の酸素は酸化ヘモグロビンHbO_2によって運ばれます。ヘモグロビンHbは血液中（水）にあるので〝H〟であらわされ、〝b〟はベッドをあらわし、酸素Oをベッド〝b〟に寝かせて運び、それを細胞まで届けて原子のエネルギー源とすることをあらわしています。また次のビジョンでも細胞が生きているということを知らされました。

〝たくさんの丸い細胞が何列かに並んでいるのは血管の細胞で、その一つ一つが顔のようになっている。その一部に細胞2個分くらいの大きさの丸がある〟

このビジョンの意味は「大きな丸は白血球で、血管壁の細胞の有志が白血球になるということをあらわしました。そして細菌などが侵入すると、その有志が白血球になって攻撃するので白血球が増加する」ということです。

【意識と病気の関係】

病気はその人の潜在意識が知らせる信号です。病気になった時には、なぜ知らせて来たかそれまでの生活習慣などを見直し、その人の潜在意識に問うことが大切です。けれどもその潜在意識が何を知らせているか分からない場合は病院に行かなければいけませんが、薬を飲むにしてもまず身体の臓器などに感謝し、身体に無理をさせたことに対して侘びることが大切です。細胞たちは生みの苦しみを経て新しい細胞に生まれ変わります。内臓や手足などにも意識があると思って労わってください。

以下はそれぞれチャネリングで知らされた言葉ですので、ご自由にご判断ください。

《癌や急死》

「癌は、山であるイシカミのことを口伝えに伝えることを、支配星に協力してヤマイダレで隠して邪魔をしようとした時、その人の潜在意識が知らせるために発病します。また潜在意識が顕在意識に、なぜ肉体を持ったかということを思い出して欲しいと思っているのに、顕在意識が潜在意識を認めないと、早く生まれ変わりたいと思うようになります。そしてより早く命を断ち切ろうとした結果が、事故や急病による急死です。肉体は無くなっても意識が残ることを知らない人は今生に未練が残り、去ろうか残ろうかどうしようかと迷い、長患い

をする場合もあります。癌などの痛みがあるのは、その人の潜在意識が未練を断ち切りたいので、痛みを起して肉体に未練を残させないで、と星たちに頼んでいるのです」

《脳出血》

「脳出血になるのは、顕在意識と潜在意識の意見が合わなくてチャンバラをして、潜在意識が血管をちょん切るからです。顕在意識で頑固に思いこんでいることが、その人の潜在意識の思いと違う場合、その人の潜在意識がお知らせするのです」

《脳梗塞》

「脳出血と同じく顕在意識と潜在意識の意見が合わず、思いを分かってくれないと潜在意識が血管を詰まらせて、自分で自分の脳を壊してお知らせするのです。脳出血と脳梗塞の両方とも身体の麻痺を引き起こすのはなぜかというと、肉体だけではなく潜在意識もあるということを知らせています」

《くも膜下出血》

「顕在意識では生きたいと思っていても、潜在意識はもう人間の仕事が終わったと思い、脳に幕（＝膜）を閉じるので出血するのです」

《肝肥大》

「肝臓の働きはシリウスが考えました。シリウスの教えたことが肝臓を構成する原子に組み込まれているので、肝臓はたくさんの働きをします。その一つが血液の検問所の働きで、悪いものが入るとそのままでは通さずに違う形に変えてしまいます。悪者でないものもそこを通り抜けた時には違う形に変化させて、人間に必要なものにします。そしてその変化させたものを指示された部位に送り出しますが、一部に多すぎるものは指示された所が受け取らない場合もあります。それらのものはイシカミから出来た人間の肉体が好きなので、肉体から出て行きたがらずに肝臓の周りに留まることがあります。それが肝肥大の原因になります」

《花粉症》

「空気は微量の電気を帯びています。もし人間に鼻が無ければ、その電気を帯びた空気が直接に大切な間脳のそばを通るので、その影響を少なくするために鼻を創ったのです。鼻があると、そこを通過する間に空気は水分を得て放電してしまいます。それと同じように、嫌な思いを持った空気が入ってくると、多量の鼻水で流し出そうとします。それが花粉症です」

【身体からのメッセージ】

これまで原子に意識があると書いてきましたが、原子の塊である肉体の臓器などからもメッセージを受け取る時があります。それはその部分にチクチクと５～６回サインがあり、その時は神経を落ち着けて言葉が出てくるのを待ちます。かすかに言葉になるのは、本当に人間のような言葉です。面白いことに、食べ過ぎて苦しいくらいの時に「食べすぎてごめんね」というと、胃の部分がチクチクとして「ごめんですむなら警察いらん」と言ってきたこともありました。このように肉体の臓器は一生懸命働いているので、そこに意識を向けてあげることが大切です。この後に人間の臓器や身体からのメッセージをお伝えします。

《胃》

「胃に神経がたくさん集まっているのは、原子で出来た細胞同士が連絡をするためです。身体の細胞同士が仲良くするには、適量の食べ物を定期的に細胞に与えることが大切です。それなので、食べ物をまとめてたくさん食べることはとても嫌なのです。朝起きてすぐは胃も眠いし、寝る前にたくさん食べることも、胃が徹夜で働くことになるので嫌なのです」

《肝臓》

「人間が疲れる時は肝臓も疲れるので、あまり激しい運動はしないでください。肝臓は特に油脂類が嫌なので、それを食べ過ぎずに満腹になる前に止めて欲しいのです。肝臓の網が壊

れると、若い細胞がみんな遊びに行っていなくなるので、古い人（細胞）しか働きません。それなので、壊れたら網を治して欲しいのです。肝臓の網を治すには、何時も死んでいく細胞がいると思って欲しいのです。そしてその細胞に〝ありがとう〟と言って欲しいのです。また新しく生まれる細胞はとても苦労をして生まれた、ということを知って欲しいのです。その若い細胞に〝がんばって働いてね〟と声かけをして欲しいのです。そしてイシカミのイシジンが肝臓を考えたということを（改めて）思って欲しいのです」

「朝食は軽くして肝臓も休ませて欲しいのです。そして細胞が死ぬことになるお酒は止めて欲しいのです。お酒の強い人は、イシカミの意識が頑張っている人と、リュージンの意識が強い人です。アルコール漬けになるほど飲むのは、ホルマリン漬けの前の段階と同じこと、と身体の原子たちは思って怒っています。果物以外の酸っぱすぎるものも止めてください。肝臓の細胞は生き返ることが出来るので、身体の原子たちがソラに戻る前に、休みを取りながら何時でも楽しく仕事をして欲しいです」

《脾臓》

「脾臓が忙しく働かなければならなくなる時は、生きている人間の身体にとっては良くない時で、それは人間の身体の秘密を握っています。脾臓には死んだ時に働くプログラムが入っ

ていて、その時に身体のあらゆる原子たちに送る指令が入っているのです。それで生きている時には必要のない臓器で、肝臓とは反対の仕事をすることになります。脾臓の原子たちはいつまでも仕事が無いのが嫌になり、それで色々な病気を起こさせるのです。脾臓の原子たちに早く仕事をしなくては、と思わせないでください。脾臓が死の準備の指令を発するので、身体の原子たちが準備を始めるのです。人間として楽しく生きることが出来るように、予行演習が済んだらその後は潜在意識にお任せください、と脾臓を構成する原子たちにお伝えください」

「脾臓に知らせて欲しいのです。死に行く時にはお世話になりますが、その時にはお知らせしますので、それまではゆっくりお休みください、と。今まさに脾臓がお知らせしている場合は、その思いをしっかりと聞いて、本当に悪いことを消し去るのに力を貸してください、とお願いしてください」

《アキレス腱》

「ハイヒールは身体に悪いのです。足裏を地面に付けて欲しいのです。なぜかというと、ハイヒールはアキレス腱を甘やかすからです。アキレス腱は足の筋肉の中で一番大切な働きをします。そしてアキレス腱は足と足の甲を直角になるようにしています。ハイヒールを履く

と、それをしなくても良いと指令が行くので、アキレス腱が働かなくなります。そうすると自然に他の筋肉も働くのを止めようと思うのです。足だけでなく他の筋肉も働くのを止めようとします」

《右の足と左の足は仲良く》

「足の骨もイシカミが作ってくれたので、イシカミにお礼をして欲しいです。両足を出来るだけ離さないで、右の足と左の足は仲良くして欲しいのです。特に小さい（乳児の）時には片足だけでは心細いので、両足は出来るだけ一緒にいたいのです」

人間は生まれてからしばらくは関節がしっかりとしていません。ペルーやチベットの子供は乳児の時に両足を揃えて育てられます。これまでの慣習で乳児の足を揃えて育てるのは、険しい山道を歩く経験からきたものでしょう。それに比べ現在の日本では、赤ちゃんの時から股を広げてオムツをして、チャイルドシートでも足を広げています。その結果、現代の若者は長時間立っていることが出来ず、すぐに地面に座るようになったのだと思います。

第９章　人間を支配してきたもの

【見えない世界を利用するエネルギー体への警告】

夢はあまり意味の無い場合が多いですが、はっきりと記憶に残る夢は潜在意識からのメッセージを伝えています。今回も多くの情報をまとめることは困難を極めましたが、何とか見通しが付いたと思った頃に強烈な夢を見ました。締め切り間際に見たその夢は『洋服のポケットにたくさんの白い蛆虫が湧いていて、それを灰でまぶして駆除している』というもので、あまりに多くの蛆虫に驚いて目が覚めました。意味を聞くと「蛆というのは人間を支配しようとするあらゆるエネルギー体です。特に支配の存在が陰に隠れていて気付かない宗教・宇宙エネルギー・精神世界など、見えない世界と関係のあることをこれまでの本でしっかり知らせてこなかったので、今回の本では蛆が増えないように書いて欲しい」と伝えてきました。

中でも宗教は長い年月の間信じられ続けてきました。しかし同時にその歴史は、それぞれの時代の権力者が宗教を利用する、言わば争いの歴史でもあったのです。それはこの宗教を生み出した存在が、地球の人間を支配しようとする外宇宙の星の一族の意識であり、それに同調した支配星が人間に教えたものだからです。そしてその宗教の解釈の違いを基に、人間同士が争うことを外宇宙のものや支配星が楽んで、これまでそれを自分たちのエネルギー源にしていたからです。

【小休止：外宇宙の一族】

外宇宙とは私たちの住む天の川銀河の外からやってくる意識で、その意識はとても強力です。宇宙の中でこの地球だけが人間という面白い体験が出来るので、その地球を乗っ取ろうとやって来た意識です。そしてそれが地球で肉体を持って人間になりました。外宇宙の王は仏教を教えました。外宇宙の女王は、ホシノミナが稲妻で恐竜を全滅させたことを知り、それを真似て横向の稲妻で原子たちを脅して、言うことを聞かせてきました。そして外宇宙の一族の子供たちもたくさんやって来て、人間を意のままに操ろうと、同じ思いの大きな支配星や星座たちを部下にして、あらゆる宗教を起こしていきました。

【宗教のエネルギー体が人間を支配してきた】

きれいな言葉で隠されているあらゆる宗教の始まりは外宇宙のものが考えました。イシカミや巨人がテレパシーで人間に生き方を教えたり、食べ物を与えたり、人間に語りかけたりしているのを外宇宙の王が見て、自分たちが人間を支配しようと思ったからでした。そして同じように人間を支配しようと思っていた銀河系の大きな星を支配星として仲間に入れ、共同で人間を操って支配しようと思ったのです。そしてその強い力で脳に直接つながると人間

を支配出来ることを学び、人間を支配していったのが、あらゆる宗教の始まりなのです。

人間の発生からその面倒を見てきたイシカミとシリウスを排除し、人間に彼らのことを忘れさせるために、人間が一番不思議だと思っていることを悪用したのです。イシジンたちは自分や人間が生まれ変わることが出来るのを知っていたので、死というものをあまり重要視していませんでした。しかし人間は突然死んでしまうのがとても辛く不安感を持っていて、死んだ後のことが分からないと思っていました。そのことを知った外宇宙の王は、死後の世界を支配星が治めるように教えたので、実際に１９９８年まで支配星とその仲間が死後の世界を支配し、悲惨な地獄を作り出していました。そして支配した人間にビジョンで地獄を見せてそれを人々に伝えさせ、言うことを聞かないと地獄へ送ると脅して信仰を強要させ、そこから抜けることが非常に困難な状態にさせていました。それは現代の新興宗教も同じです。支配された人間は幻聴で脅かされて、言うことを聞くと超能力を与えられ、いろいろな奇跡を起こすことが出来るようになり、人々から崇めてもらえるようになる、というアメとムチで完全に支配されていきました。

支配星は人間世界を長年見てきていますのでとても賢くて、いかにも威厳のある言葉や、人を惹きつけるような言葉を巧みに操ることが出来る才能を人間に与えます。支配星がしっかりとその人間の脳につながると、自然にその言葉を言うことが出来るので、それまでと別人のように話すことが出来ました。そしてその人間を特別な人と思わせ崇めさせていき、人

間を操り人形のように支配してきました。また支配された者は人々から崇められることが心地よいので、死ぬまでその支配から抜け出ることもせず、宗教組織を作り信者を増やし、人々を羊のように従順にさせていきました。それはどのようにきれいな言葉の宗教でも全て同じで、その裏には人間を支配し、洗脳して操り人間にする支配星がいて、組織内外に関わらず争わせ、人間から怒りや恐怖のエネルギーを得てきたのです。そしてそれは古代の人が無知だったというわけではなく、より知識もある現代でも全く同じ状況なのは、意識が強力な星から送られてくるので、人間の力ではどうすることも出来なかったからなのです。

【誕生から死まで宗教の行事で支配されてきた】

外宇宙のものが指導して支配星が教えたあらゆる宗教において、その大きな組織の中で巨大なエネルギー体が発生して、それが星の意識の代わりに地球中の人間社会を大きく覆っています。生まれた時のお宮参り・洗礼等から、リュージンを崇めるお祭り・クリスマス、死んだ時の宗教に関わる葬式まで、それらのことが当たり前のように行われている現実に、いかに人間が今でも宗教に洗脳されているのかがよく分かります。

どのようなきれいな言葉で隠しても、後年の権力者がその宗教を利用して、その結果が争いの歴史であったことは確かです。今そのことをしっかりと知らせているのがイスラム教の

宗派間の争いですが、キリスト教もかつてはカソリックとプロテスタントの悲惨な争いがあり、ＩＲＡなど近年まで続いていました。また仏教も同じで、たくさんの宗派に分かれてお互い罵り合い、昔は今のイスラム教の争いと同じような一向一揆などで、進むも地獄・帰るも地獄と信徒を戦わせていました。労働に耐えることが出来る肉体を持って生まれてきた元気な若者が、寺にこもり意味の無いお経を読むことだけで食料を得て、いわば労働している人から搾取するような宗教界の風習は、人間社会の目的から外れています。それが顕著にあらわれているのがチベットなどですが、チベットを仏教の原点と称して賞賛することには大いに問題があります。〝万教同根〟などと宗教家が説く裏には、外宇宙の王やその一族、部下の支配星があらゆる宗教を作り出したという真相があります。

現代の新興宗教も形は違っても中身は同じです。信じなければ地獄へ行く、と洗脳し離脱しないように仕向け、新たに信者を獲得することが功徳になると信じ込ませ、死んでから天国へ行ける、と思わせているのはイスラムのテロリストと同じ考えです。

【きれいな言葉の陰に支配が隠された精神世界】

さらに支配星の考えを巧妙に隠したのが精神世界です。〝悪をも愛で包む〟という言葉を表に掲げて、抽象的できれいな言葉を羅列して人々を惹きつけていますが、悪を見逃してき

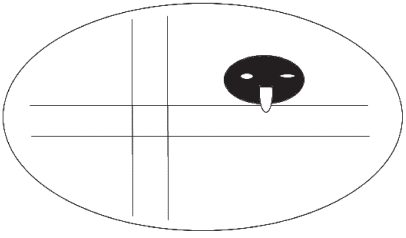
たというよりも、同じ仲間なので見逃してあげていただけなのです。そしてその結果がこのような混乱の世の中になったのです。死後の意識だけの世界をあらわすアセンションがとても良いことと教え込んだ中には、この世界から早く去ろうという思いが隠されているのです。また悲惨な政（まつりごと）に利用されていたマヤカレンダーも、本来の意味が隠され、全く違う言葉に解釈されて現代に復活させようとしています。

【なぜリュージンが雨を支配できたか？】

支配星は人々を集めて特定のものを拝ませることで、そこに巨大なエネルギー体を発生させました。そしてそれがその場にいる人たちの脳に入り込んで支配していきました。そのエネルギー体の一つがリュージンで、リュージンは神道・仏教の裏に隠れて人間を支配してきました。そのことは神社などでリュージンそのものが飾られ、仏教では観音がリュージンに乗っていることで分かります。観音は柔和な顔をしていますが、振り向けば般若の顔と言い、死後の世界では般若として亡くなった人の意識を何千年にも渡って支配してきました。リュージンは特に平和で退屈なのが嫌で争いを好み、これまで争いの歴史を作ってきました。それは人間の恐怖心をエネルギー源にしていたからです。

水になっている原子たちは嫌になるほど地球と人間たちのために働いているのに、人間は

雨が降れば雨ばかり、降らなければ降らないで大変だと文句ばかり言っています。そしてこともあろうに、人間は水の原子が一番嫌いなリュージンに対して雨乞いをして、水の原子たちを脅かしてきました。なぜ昔はリュージンへの雨乞いで雨が降ったかというと、リュージンを操る外宇宙の女王が鉄〝Fe〟を支配し、その電気で水の原子を弱らせると脅かしたからです。すなわち外宇宙の女王に支配されたスモール・イー〝e〟を集めて作った〝横向きの稲妻〟を降ろさせたのです。それがリュージンに頼んで雨を降らせた時に降りてきた稲妻なのです。



著者が見た横向きの稲妻のビジョン
(横向きの白い棒)

【人間の世話をしたイシジンは宗教に取り込まれた】

人間の発生に関わり、その人間を世話してきたイシジンは、石像になって世界中に多くの亡骸を残しましたが、支配星の作り出した宗教に完全に取り込まれ、イシカミの言い伝えは完全に消されてしまいました。そして支配星に支配された後年の権力者は、人間の世話をしていたイシジンのことを語り継がれると困るので、イシジンたちを自分たちの宗教に取り込んで利用し、語り継いできました。

何千年も前に始まった宗教の始まりは、実はこんな簡単なことだった、とソラのものは知らせてくれました。意味が分からないままに、これまで伝えられてきたことが正しいと思い込んでいることが、人間が生まれてきた目的とどれだけずれているかが良く分かると思います。

【見えないエネルギー】

一番大切なことは、病気は自分の身体の原子が「進んでいる道が違っていると訴えていろいろな症状を出している」ことに気付くことです。しかし実際にはなかなか分からなく、ひどい場合は、やはり問題はあっても医学に助けを求めるのが正解です。

宇宙エネルギーなど見えないエネルギーで病気を治すというのがありますが、これらも１９９８年までは、支配星の仲間が奇跡の一つとしていろいろなグッズにエネルギーを送り、それらに人間がすがるように仕向けて、人間の支配を試みてきました。それらに頼るということは、進んでいる道が違っていると身体の原子が警告しているにも関わらず、無理やりその症状を取り除こうとすることになるので、その時は一旦症状が治まったようになっても、その後かえってひどくなったり、違う形で知らされたりします。そのことをソラのものは「イスに座っておしっこをするのと同じです」と伝えてきます。またこれまでは支配星の

強力な力で病気にさせて、宗教や霊能者に頼らせて症状を取り除く、という自作自演を行って、信じさせ、依存させ、それらから離れられないようにしてきました。

瞑想とは自分の意識を空にしようとすることですが、人間に取り付きたいと待っているエネルギー体に対して、自分の中に入ってきてもいいですよ、と言っていることと同じで、とても怖いことです。そして瞑想をしていて声が聞こえると、神とかハイアーセルフにつながったと喜び、その存在を崇めるようになると、つながったエネルギー体は最初に立派なことを言って信用させ、その後その人を支配しようとします。そして幻聴が始まったりして異常をきたす場合があります。まず他人に頼らないで、自分の潜在意識に目を向けることが大切です。直感や夢などで知らせて欲しいとソラのものに語りかけてください。

【人間を支配してきたものの意味】

- 神道の帽子の垂れ＝昆虫を送り込んだ星が昆虫の触角を真似させたもの
- 木魚＝かつては頭蓋骨だった
- 数珠＝玉に穴を通してつないでいるのは、イシカミ（玉）を奴隷のようにつないでいるということをあらわしている
- 気功＝相手を倒して支配しようというエネルギー体に支配されること

・　レイキ＝ムーの神官のエネルギー体でその人を支配しようとすること
・　波動＝水を構成する原子に語りかける基本は誤りではないが、根底にリュージン思想が隠れていて、器械に頼るように仕向けている
・　ネイルアート＝甲虫を送り込んだ星が教えたことで甲虫は形だけを重視している虫
・　アロマ・テラピー＝バラなどの良い匂いだけ重視するので、身体の中で働いたアンモニアなどは怒って逆襲を考えている＝嫌な臭いがより強烈に感じるようになる
・　ヒプノ（催眠）＝これは施術者の資質に大きく影響される。使い方によっては効果があるが、施術者にエネルギー体が取り付いている場合は、見せられる過去世が全く違って、かえって恐怖を生む場合もあり安易に飛びつかないことが大切
・　映像など＝恐怖を売り物にする映像を個室などで見ていると、リアルすぎて現実と映像の世界と区別がつかなくなり、脳に大きな影響がある

【生まれ変わりについて】

〝白い光の階段のビジョン〟を見て知らされたことです。

「階段を降りると死の世界です。けれども生まれ変わることを知ると、光り輝く階段を降りることが出来るのです。ボリビアのティワナクの半地下神殿にいろいろな顔の像が埋め込ま

れているのは、どんな顔に生まれ変わるのか自分で決めることが出来る、ということを知らせています。新しく人間として生まれ変わる時に、マの者に生まれ変わろう、という人はいません。それなのになぜマの人になるかというと、死ぬ前にマのものの言うことを聞くからです。それで大きくなるとマのものに導かれるのです。なぜかというと、死ぬ前にマのモノに生まれ変わりを任せてマに裁かせたからです」

マのモノとは宗教のエネルギー体のことです。

【ホロコーストもキリスト教が関係していた】

キリスト教社会で起こったホロコーストも、仏教を作り出した外宇宙の王が関係していました。支配星はイエスを支配してあらゆる奇跡を起させて、人々を信じさせキリスト教としてヨーロッパを中心に広く世界に広がりました。キリスト教のエネルギー体はドイツなどで人間を支配し力を与え、不景気だった当時のドイツ国民の不満をイエスを裏切った（とされた）ユダに向けさせ、その子孫がユダヤ人だと言ってユダヤ人に極限の苦しみを与えました。ナチスの（逆）マンジとはそのカタカナの意味の通り〝マのものが人間の死後を支配する〟という意味です。卍は膝を折る形になるので反対に曲げたのです。この文字は十字架と似ていて、それは〝これからもキリスト教が闊歩していく〟ということを支配星が教えたの

です。

【小休止：ユダの福音書】

イエスに関してはイエス本人やソラのものから詳しく知らされており、既刊本「ソラからの真実の歴史（ブイツーソリューション）」に【ソラのイエス物語】として紹介しています。そしてこの物語と関連深い「ユダの福音書」が最近になって公開されました。そこにはこれまでイエスを裏切ったとされてきたユダが、イエスの一番信頼した人であったことが記されています。最後の晩餐の絵で、イエスとユダと少年（バーソロミュー）の３人がマントを着ているのは、この３人で脱走する計画を立てていたことをあらわしています。それらは【ソラのイエス物語】の筋道と全て合っています。

付録

【ソラの釈迦とブッタ物語】

これはソラのものからチャネリングで知らされた物語で、想像で書いたものではありません。

大昔インドのある国に釈迦とブッタという双子の兄弟の王子がいました。兄の釈迦はとても活発で、いわば遊び上手で女性関係も華やかでした。弟のブッタは身体が弱く、兄が余りに元気でハンサムなので現実を見たくないと思っていたら、目の筋肉が衰えだして十分に働かなくなりだしました。それでいつも半分目を閉じたようになり、女性にますますもてなくなり、兄をうらやみいつもひがんでいました。そして何とかして皆を見返してやろうと思い、どうすれば皆をあっと言わせて人の上に立つことが出来るかいつも考えていました。

そのような思いをしているブッタをソラから見ているものがいました。それが外宇宙の王でした。外宇宙の王は人間を思うままに支配しようと思っていたので、ブッタを支配しようと思いました。星は人間に対して大きな力を持っていたので、大きな星を自分の仲間に誘お

うと思いました。大きな星たちは人間を支配したいと思っていたので、外宇宙のものの仲間になりました。それらの星の中には地球の始まりから見ていたとても賢い星もおり、外宇宙の王はそれらに人間を支配させようと思いました。それが支配星と呼ばれるものです。

そのことを何も知らないブッタでしたが、インドには超能力を持つ仙人のような人があちこちにいたので、まずそこに行って自分も超能力を得ようとしました。けれども仙人から「あなたは王子の身でありながらなぜこのような苦しいことをするのか。自分は食べ物が無いので、いかにしたら空腹に耐えられるかという力を得るために、仕方なく苦行をしているのだ」と言われました。ブッタは仕方なく自分で修行して強くなろうと思い、荒野で瞑想を始めました。瞑想をするということは、何も考えないようにして心を空っぽにするということなので、それは自分を他の存在に明渡すことになりとても危険なことでした。

人間をロボットのように操りたいと思っていた支配星の意識体が、ブッタが心を空っぽにしたその隙に肉体に入り込んでしまいました。するとブッタには突然誰もいないのに声が聞こえ出し、目を閉じていても恐ろしい地獄の光景が見え出しました。支配星の意識体はとても強力で、それを聞きたくないと思っても、また見たくないと思っても逃げられなくなり、ブッタは支配されていきました。支配星の意識体は恐怖をブッタに与えながらも、言うことを聞くと他人の病気を治す超能力をブッタに与えました。また弱かったブッタの身体にも支配星がエネルギーを与えることで、その身体は力がみなぎって別人のように力強くなりまし

た。そして声の命令するままにその言葉を人々に伝えて、その声に言われるままに行動を起こしました。賢い支配星から発せられる言葉はとても巧妙で、これまで誰も聞いたことの無いようなことを伝えてきて、特に死後の世界のことをまるで見てきたように伝えました。ブッダはそれらのことを周りの人たちに伝え広めました。

周りの人たちは弱々しかったブッダが急に元気なり立派な言葉を話すようになったので驚きました。また彼がいろいろな奇跡を起こして、不安に思っていた死後の世界のことを教えてくれるので、言われるままにブッダを崇めるようになりました。けれどもブッダが言ったことは良いことばかりではありませんでした。支配星はブッダに「言った通りに言わないと地獄へ送る」と強迫し、地獄の恐ろしい様子を詳しく話させて人々に信じるように強制させました。ブッダが声の主に言うのは嫌だと言ったその一つが「人間は食べた物に生まれ変わる」でした。そのために「動物の肉を食べてはいけない。人間に生まれ変わるには人間を食べると良い」と言わされました。ブッダが死んでからのことを話してくれるというので沢山の人たちが集まっていましたが、それを聞いて四千人の人たちは一度に帰ってしまいました。そのためにインドで仏教は広まりませんでしたが、遠く離れた国の人たちはその恐ろしいことをブッダが言ったことを知らなく、ブッダは死後のことを知っている人だということで多くの信者が生まれました。

人間が最初にあらわれた頃のイシカミは食べ物も作り出していました。それで人間はイシ

カミを大切にしていました。子供のイシカミたちが遅れて降りてきましたが、支配星はその子供に「人間はイシカミを大切にしてくれるから大きな身体になるように」とそそのかしました。そして子供のイシカミが大きな身体のイシジンを創ると、支配星はそのイシジンを固めてしまいました。それであちこちにイシジンの固まった巨大な石仏があるのです。

【ソラのイスラム物語】

これもソラのものからチャネリングで知らされた物語です。そしてこの物語のマホメットはイスラム教の教祖ではありません。イスラム教の教祖はこのマホメットの息子ムハメットの意識が後年に生まれ変わった者です。

中東に降りたイシカミたちは、トルコやエルサレムの地下空洞でたくさんのイシジンを創りました。そしてイシジンは創り出した人間を助けて平和な生活をしていました。それを見た外宇宙のものたちは、大きな星を誘って自分たちがイシジンの代わりになって人間を支配しようと思いました。外宇宙のものに誘われた大きな星（以後は支配星）は、イシカミやイシジンたちに、自分たちの部下にならないと強力な宇宙エネルギーで石にする、と脅かしました。けれども支配星の部下になれば、石にするまでしばらく時間の猶予を与えると言いま

した。それで一部のイシジンは羽根の生えたものになり、他のイシジンにもうすぐ固められると伝えてまわりました。また一部のイシジンは、支配星の言うままに仕方なく大きな石造建築物や、支配星の送り込んだ動物の形の石像になりました。それは何としてもイシカミたちが地球を生き物の住む星にしたことや、人間の発生に関わったことなどを、いろいろな形で残そうと思ったからです。一方支配星たちは人間を自分たちの思い通りにしたいので、特定の人間とつながって、見えない世界から言葉で支配していきました。

お腹の地下空洞でイシジンを創ったイシカミは、お腹から出て行ったイシジンが人間に生まれ変わると、その人間を自分のそばに呼び寄せて、自分のことを何とか知らせようとしました。けれども人間は親のイシカミより強力な支配星につながってしまったのです。そして支配星は神と名乗ってその人間を支配していきました。強い支配星がその人に乗り移って、周りの人に神（支配星）の代理としてその人を崇めさせるようにしました。そして支配星は人間の恐怖の思いをエネルギー源にして、人間を操り人形のように支配していき、争いの絶えない地球になっていきました。

イシカミたちは人間の悲惨な状況を見て、元イシジンだった原子たちを集めて人間に生まれ変わらせて、なんとかして支配星の呪縛を解こうと思いました。その思いを持った元イシジンにミネルバとムネルバという仲の良い双子がいました。二人とも手の平にホクロがありました。その双子は人間たちを助けようと生まれ変わりました。1人はイエス、もう1人は

マホメットといいました。偶然出会った二人の少年は、生まれ変わる前と同じようにとても仲良しになりました。大昔のことは忘れていましたが、二人の手の平に今度も同じように傷があるのを見つけて、二人はますます仲良くなりました。二人とも立派に成長しましたが、イエスはねたまれて命を狙われるようになりました。それでイエスは遠くに逃げようとして、船主であったマホメットに助けを求めました。マホメットはイエスを気の毒に思い船をあげました。そのお陰でイエスは無事脱出出来ましたが、舟をあげたことを快く思わない悪者がマホメットを殺してしまいました。そしてマホメットの財産を自分の物にして、マホメットの息子ムハメットを育てました。悪者はムハメットが本当のことに気付くのではないかと恐れて、ムハメットの命を何とか絶とうとしました。ムハメットは回りの人から愛情を受けることなく育ちました。殺された父マホメットは穏やかで皆の人望がありました。マホメットはそれまで恐ろしい復讐をせよと間違って解釈されていた法律を、次のように元に戻しました。

《目には目を》は「見て美しいものをもらったら、見て美しいものを返ししなさい」と
《歯には歯を》は「おいしい食べるものをもらったら、食べるものをお返ししなさい」と

本当の教えは神様から与えられるものを独り占めしてはいけない、ということだったのです。けれどもマホメットを殺した悪者は、また元の恐ろしい復讐をする法律に変えてしまいました。すなわち「目をやられたら目を傷つけるように。歯を壊されたら歯を壊すように」

と。息子ムハメットはそれを教えられて育ちました。また悪者はムハメットに、父親を殺したのはキリスト教徒だとうそを教えていました。ムハメットは絶えず命を狙われる感じがするために人を信じることができませんでした。彼はたった一人の妹だけを愛していましたが、その妹も命を狙われるのでないかと心配していました。それでムハメットは、妹が外に出る時は顔が分からないようにしようと思いました。それで女性には皆、布で顔を隠すように命令をしたのです。それでもムハメットは心が落ち着かなく、なんとか強くなろうと平野で修行をしていました。その時ムハメットには声が聞こえたのです。

「黒い水（石油やコールタール）が出るところを教えてやろう。けれどもその黒い水が出るとお前の命を狙う者が出てくる。それは妹と一緒になった者だ」と。

やがて妹にも好きな人が出来て一緒になりたいと言いました。相手はムハメットの部下でした。ムハメットは悩んだ末に妹の目を刺し、その部下を殺してしまいました。その後ムハメットは見えないものの声の言うことを聞いて大きな国を作ることが出来ましたが、最後まで妹と自分の部下のことを後悔していました。

ムハメットはますます強い王様になり厳しい掟を作りました。ご馳走を食べ過ぎるのでたまにはお腹を休めるように、という声を聞いて国民にも同じように（断食）するように言いました。ムハメットは頭の上から声が聞こえるので、他の人にその声を聞かせないようにするために頭に布を巻くように言いました。また太陽と地球に感謝をするようにお辞儀をさ

せました。豚は悪いドラゴンが変化したものだとその声が言ったために、豚を食べることを禁止しました。

イスラム教徒が白い服を着るのは、宇宙の始まりが白い光であったのと、稲妻の白い光がホシノミナをあらわしていたためです。イスラム教徒がメッカで柱の周りを回るのは、宇宙の始まりが渦巻きだったことをあらわしています。それなのでメッカに行かなくても、渦巻きの意味を知るだけで思いは宇宙に通じるのです。イスラム教徒が床に座り拝むことは、地球を生物の住む星にしてくれ、食べ物を与えてくれたイシカミの身体に触れて、感謝していることをあらわしています。ムハメットはいろいろな厳しい掟を作りましたが、仲間を大切にすることなどの良いことも決めました。これらの大昔に作られた教えが現代まで残っているのがイスラムの世界です。イスラムの教えは感謝すること、仲間を大切にすることなど、とても良い教えなのです。

イスラム社会で争いが絶えないのは、昔の教えが長い年月の間に少し間違って伝えられたためです。偶像を崇めてはいけないという良い教えがあるのに、宗教指導者を崇めているのもその一つです。意識の世界にいるマホメットは、このことがとても悲しいと伝えて欲しいと

S.Mayu



言ってきました。宗教指導者が支配星に支配されると、ひたすら〝何々をしなければならぬ〟と強制して今のような悲劇が起きます。しかし原点に立ち返れば問題は解決されるのです。

【世界の巨人伝説とローマ式建築物】

インターネットで調べただけですのでもっと他にもあると思いますが、世界中には巨人伝説やローマ式建築物がこれほどたくさんあるということを紹介させていただきます。

《日本の巨人伝説》

北海道　アイヌに伝わる魔人伝説
青森県　岩木山のオオヒト
山形県　秋田県 鳥海山の手長・足長
宮城県　太白山麓の巨人、七つ森の朝比奈三郎
福島県　舘岩村のダイタンボウ、二岐山のディデンボー、信夫三山のおおわらじ、磐梯山の手長・足長

茨城県	大宮町のダイダラボッチ、水戸市のダイダラボウ、
	富浦町のじゃじゃあぼう、水戸市の大櫛
栃木県	横根山のデイレンボウ、日光市のデイタン坊、鹿沼市のダイダラ法師
神奈川県	相模原のデェラボッチ・デイダラボッチ、城山町のデーラサマ
東京都	青梅市のダイダラボッチ、東村山市のダイダラボッチ
千葉県	筑波山のダイダラボッチ、松戸市のダイダラボッチの足跡、
	木更津のデーデーボーチャ
長野県	明科町のデーラボッチ、松本市のデーラボッチャ、高森町のダイダラ
	ボッチ、朝日村のデイダラボッチャ、高ボッチ山のデイダラボッチ
群馬県	妙義山のデエランボー、榛名山のダイダラボッチ
埼玉県	川越市のダイダラボッチ、秩父市のダイダラボッチ、長瀞町の
	ダイダラボッチ
静岡県	静岡市のダイラボウ、本川根町の大多良坊、富士山を作ったダイダラ
	ボッチ、両河内村のダイランボウ
山梨県	山梨市のダイダラボッチ
岐阜県	両面宿儺（りょうめんすくな）

愛知県	石巻山と本宮山のダイダラボッチ、加木屋町の陀々法師、豊橋市のダイダラボッチ
三重県	志摩市のダンダラボッチ
滋賀県	伊吹山の伊吹弥三郎
和歌山県	ヒトツタタラ
兵庫県	甲山のソラジン
島根県	巨人のオオヒト
岡山県	奈義町のさんぶたろう、鬼城山の温羅（ウラ）
香川県	飯野山のおじょも（大男）
愛媛県	石槌山の巨人の足跡
高知県	本山村のダイダラ坊（大山伏）
福岡県	広川町の大人（ううひと）
大分県	大人（ううひと）、大人弥五郎
長崎県	みそ五郎、手長男
鹿児島県	弥五郎どん
宮崎県	大隅町の弥五郎どん・大人（ううひと）
沖縄県	与那国島のサンアイ・イソバ、伊江島のタンナーバ、佐敷町のアマンチュ

この他にも山が巨人だったという伝説、鬼として扱われて名前が無いもの、巨人の足跡が沼や湖になったというものも数多く残っています。巨大なわらじや下駄、鎌などを祭る神社もあります。

《海外の巨人伝説》

ギリシャ神話　タイタン、クレタ島のタロス、アトラス山脈のアトラス、ゲリュネオス、ヘカトンケイル、アリマスポイ人、アルゴス、アンタイオス、ポリュペモス、キュクロプス、カクス

北欧・ヨーロッパ神話　スルト、グレンデル、フルングニル、ミーミル、コーラング、オーグル、ゴグマゴグ、ユミル、モクロカルボ、ヨツン

ヒッタイト（古代トルコ）　ウルリクムミ

旧約聖書　ゴリアテ、ネフィリム、オグ

イギリス　コーンウォール

イタリア　エンケラドス

アイルランド　ジャイアントコーズウェイ

ロシア　レーシー

チェコ　ゴーレム
エストニア　オレフ
アフリカ　テーブル・マウンテンの巨人説や巨人の１５０ｃｍの足跡
メキシコ　ウグブカキシュ、カブラカン、シパクナ
ハワイ諸島　プニ、ハウプ、マウイ
オーストラリア　ヨーウィ
ニュージーランド　ワカティフ湖の湖底の巨人
ボリビア　ボリビアン・ジャイアント
中国神話　盤古、洪水工事をした撲父、コホ、刑天、秦の毛人

巨人の地上絵もイギリスやペルーに残されています。

《ローマ式建築物など》

以下はインターネットで調べた物で、実際見たわけではありませんので正確さには欠けますが、ローマの建物に似たものがあるというだけでローマ帝国が造った、と言われていることに疑問を持って頂きたいと思います。

［ローマ式劇場型］

イタリア　ローマのコロッセオ【円形劇場型】
フランス　オランジュ、アルル【劇場型】
スペイン　メリダ【劇場型】
ハンガリー　ブダペスト【劇場型】
オーストリア　ペトロネル・カルヌントゥム【円形劇場】
スイス　アヴァンシュ【劇場型】
シリア　パルミラ、ボスラ【劇場型】
レバノン　シドン、バールベック、ビブロス【劇場型】
ヨルダン　アンマン【劇場型】

イスラエル　カイザリア、ベトシアン【劇場型】
ギリシャ　ディオニソス、ヘロド・アティクス【劇場型】
トルコ　アスペンドス、アクロポリス、エフェス、アフロディシアス、ファセリス、ニサ【劇場型】
エジプト　アレキサンドリア【劇場型】
リビア　アポローニャ、レプティス・マグナ、サブラタ【劇場型】
チュニジア　エルジェム【円形闘技場】

［劇場と似たもので円形階段畑］
ペルー　モライ遺跡

［列柱］
レバノン　ティール、スール
ヨルダン　ジェラシュ
トルコ　アスクレピオン、エフェス、アフロディシアス【列柱回廊】
シリア　パルミラ

［水道橋］

フランス　ポン・デュ・ガール
スペイン　セゴビア、メリダ
イタリア　ポルタ・マッジョーレ、ヴァンヴィテッリ、ミントゥルニア
ハンガリー　ブタペスト
ギリシャ　アラマレス
トルコ　ヴァレンス、フェセリス、セルチェク
イスラエル　カイザリア
レバノン　パールベック
エジプト　カイロ
チュニジア　ザグーアン
アルジェリア　ティパサ
ハワイ諸島　カウアイ島西部、メネフネ・ディッチ（小人族）の石造りの水路
メキシコ　ケレタロ

［お風呂］

イギリス　バース［お風呂］

ギリシャ　ディオン〔お風呂〕
ハンガリー　ブダペスト〔お風呂〕
トルコ　アンカラ〔ローマ風呂〕、テッケ・キョユ、ヒエロポリス〔温泉〕
イスラエル　ベトシアン〔お風呂〕
レバノン　シドン、アンジャール〔お風呂〕
イラン　ペルセポリス〔お風呂〕
アルジェリア　ティパサ〔お風呂〕
リビア　レプティスマグナ〔ローマ風呂〕
チュニジア　カルタゴ〔お風呂〕
グアアテマラ　ティカル遺跡〔蒸し風呂〕
マケドニア　ディオン〔共同浴場の基部〕

［トイレ］
イタリア　ポンペイ
ギリシャ　ディオン、ミノア、フィリピ
トルコ　エフェス
レバノン　シドン

イラク　　テル・アスマル
チュニジア　ドゥッガ

ベルサイユやロシアのお城は、イシジンが使っていたためにトイレがなかったようです。
ヨーロッパの古い下水道もイシカミたちの身体の変化と伝えられています。

あとがき

２００６年2月に日本の歴史を主にまとめた「ソラからの真実の歴史」を発刊して、それからすぐに人間誕生の情報が次々に知らされて、出来るだけ早くまとめて欲しいとチャネリングで伝えられました。本の締め切りを知っているかのように、これも知らせて欲しいと次々に新しい情報が伝えられて、それらは全て筋道がつながりました。しかしそれらをまとめて文にすることは困難を極め、さらにその作業を邪魔する見えない存在も感じていました。それらに対応しながらも、インターネットでお知らせを公開していくことも大切だったので、原稿の完了が当初の予定より大幅に遅れてしまいました。一時は投げ出したいくらいになりましたが、情報の大きな振り分けをＩさんご夫婦にお願いして、その後何とかまとめることが出来ました。本の形で出版出来ることになったのは、いつものようにＳ・フミヒロさんのお陰です。また、読者の方にも協力していただいたお陰で、想像をはるかに超えるたくさんの遺跡や巨人伝説の資料を集めることが出来ました。重ねて皆様に御礼を申し上げます。うれしいことに、ソラから知らされた物語の一部が、イラク国内で印刷されて子供たちに渡されることにもなりそうです。

インターネットのお陰で、これまでいかにイシカミ作品の多くが世に知られることなく風

雨にさらされ、戦乱で壊されているかも改めて分かりました。文献は後年の権力者が都合の良いように書き換えたと思われますので、文献を重視しすぎることなく、現実に残されている遺跡などで原点に返ってありのままで見ていって欲しいと思います。残されている遺跡などは果たして本当に人間の力で出来たでしょうか？　あらゆる条件を考えると到底無理と分かっていても、あたかも本当であるかのように断定してそれらは説明されています。特にテレビの説明では常に違和感があるので、見る人個人の判断にゆだねて欲しいと思います。人間に出来る限界を謙虚に見つめることが大切だと思います。

まだまだ分からないことばかりですが、ソラのものも何とか分かりやすく知らせようとビジョンなどで見せて教えてくれて、本当にありがたいと思っています。ソラのもののお知らせは時には厳しいこともありますが、それを乗り越えてこそ人間として成長出来ると思っている人間の親の思いと同じだと感じています。見えない世界に意識があるということに気付き、私たちが感謝の意識を向けることで、人間として楽しく生きることが出来るように、ソラのものたちは一生懸命応援してくれていることは確かだと思っています。人間として生きるのは、意識の世界から見ると瞬きをする間くらいとも言われます。宇宙の最高傑作である肉体を得ることが出来た今生を大切にして、精一杯その肉体に感謝して、人間として生かしてもらえるこの地球のすばらしさを感じて生きていきたいと思います。原稿を締め切った後に伝えられたことです。

【ニュートリノにも意識がある】

ニュートリノは集まって物質になろうと思いましたが物質にはなれませんでした。しかし人間がニュートリノを見つけたことで、意識を向けてもらえて大きな塊になれることが分かりました。それで人間の世界に参加したいと思うようになり、地球を助けようと思うニュートリノは、大きな塊になってソラのものの連絡役をしてくれるようになりました。ただ外宇宙のものが仲間にしたニュートリノは、宗教などのエネルギー体として人間世界に大きな関わりを持って、オーブ（光の玉）などで形をあらわしたりしています。ニュートリノは宇宙の大元が創り出したものではなく、太陽からも降り注いだり原子力発電でも創られたりします。そして思いを持ったニュートリノがどんどん増えているので、見えない世界を人間がどう思うかで地球の未来が決まるようです。

最後になりましたが、読者の皆様にはいろいろな情報を知らせてくださり、またブログやメールで応援してくださり、心よりお礼を申し上げます。表紙の絵を描いてくださったひこさん、K. Kawaiさん、「黒い肌の人とカラスの物語」の漫画を描いてくださったほのかさん、挿絵のS. Mayuさん、Seikoさん、K. Kawaiさん、画像を提供してくださったIさん、F. Hiroshiさん、原稿チェックに協力していただいたT. HIROSHIさん、K. Toshieさんに感謝いたします。

ソラの人間誕生記
二〇〇六年十一月三十日　初版第一刷発行
著者　白木 妙子（合資会社ソラと星出版）
編集　S・フミヒロ（合資会社ソラと星出版）
発行所
発売元
印刷・製本
本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で定められた場合を除き、著作者および出版社の権利の侵害となります。
© TAEKO SIRAKI 2006,Printed in Japan

ソラからの真実の歴史

白木妙子著／Ｓ・フミヒロ編集

ソラのものやイシカミたち、過去人間だった意識が語る宇宙、地球、世界、日本の隠された真実の歴史です。宇宙や地球の成り立ち、イシカミについて、ヤマタイコク、出雲と倭の国、ヤマト、明治維新までの隠された真実について解き明かします。

友達物語２

白木妙子著

ソラのものはイスラムの教えが復讐の教えでないことを伝えています。アラビア語（一部日本語）の本です。8ページの小冊子です。パレスチナ、レバノン、イラク、イランなどに送られています。

友達物語

シロキカヨコ著

日本語・英語併記です。2ページで分かるイシカミの物語、イシカミが伝えたかったこと、エジプト太陽の船の秘密、太古のユダヤの人とパレスチナの人の関係、イスラムの教えの本当の意味、人間が創られた意味などが分かります。

地球物語

S.フミヒロ／シロキカヨコ共著

大昔に空からひらりひらりと、まるでクラゲのようにとても柔らかな、山のように巨大で、それでいて意識のあるモノが地球に降りてきました。そのことを知らせる証拠のさまざまな岩や岩絵を集めました。

ソラからの伝言

シロキカヨコ著／ソラプロジェクト編

ソラのものの思いが、今ようやく言葉として伝えることができるようになりました。いろいろな「なぜ」に答えます。

ホシ物語

シロキカヨコ／イトウキミ共著

星からのメッセージを主婦２人がわかりやすく童話風の本にまとめました。

星からのメッセージ第２集

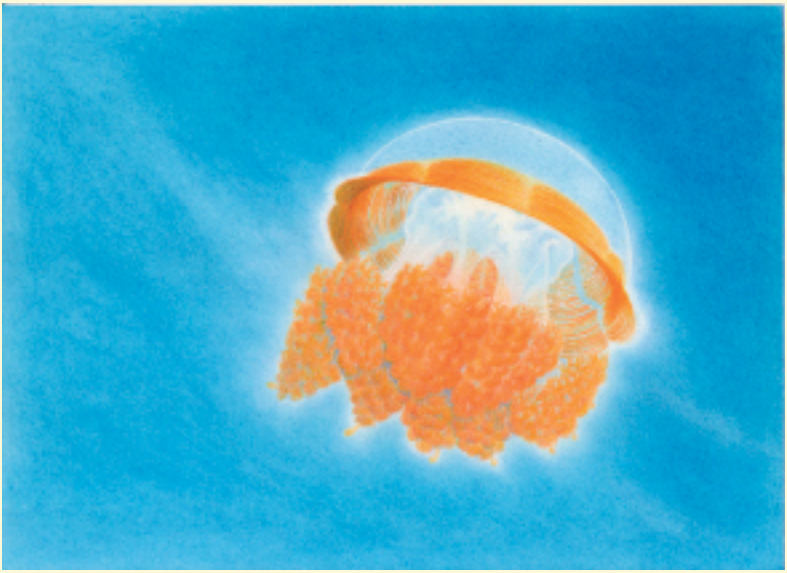
シロキカヨコ著

最初の本「星からのメッセージ」出版後に次々と知らされる情報をまとめました。2000年に伝えられた情報を日記形式でまとめています。

星からのメッセージ

シロキカヨコ著

1999年に空の意識体から伝えられた情報を日記形式でまとめています。地球の謎を解き明かします



宇宙から　思いを持つものが
クラゲのように　降りてきた。
それが
地球を固めて　生物が住める
星に　してくれた。
そして
思いを持つものは　生物や
人間の形をした　イシジンとなり
人類の発生に　大きく関わった。

ソラと星出版